

YAMAHA

AVX-100

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

YAMAHA AVX- 100

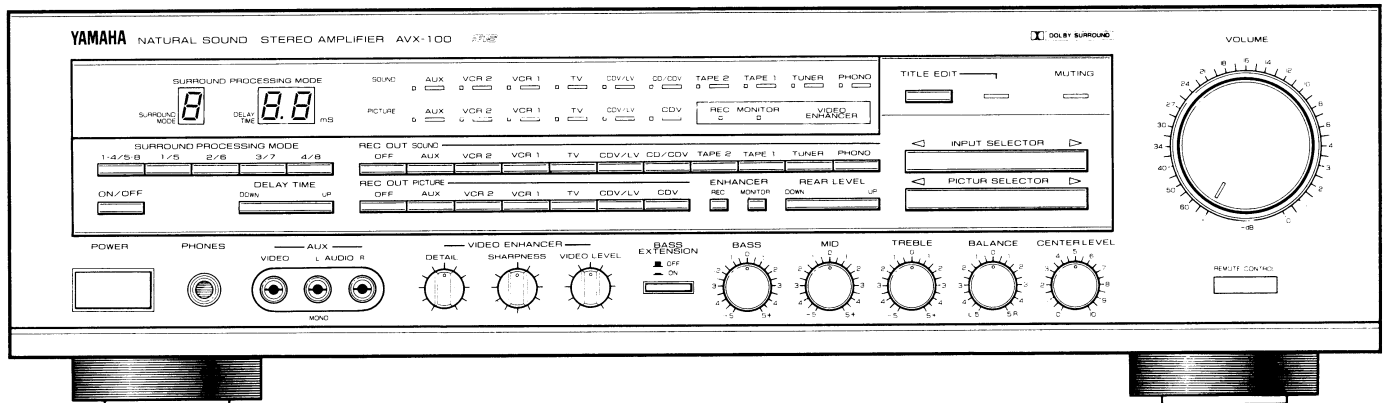
このたびは、YAMAHAステレオアンプ
AVX-100をお買い求めいただきまし
て、まことにありがとうございました。

AVX-100の優れた性能を十分に発揮させ、
未長くご愛用いただくために、この取扱説明
書を、ご使用前にぜひお読みくださいます
よう、お願いいたします。またこの取扱説明書は、
お読みになった後も、保証書とともに大切に保管して
ください。

目 次

特長	2	サラウンド再生について	21
豊かなAVライフのために	3	サラウンド再生の種類と特長	23
ご使用のまえに	4	タイトルエディットのしかた	25
システム接続図	5	ビデオエンハンサーについて	27
各部の名称とはたらき(1)	7	リモコンについて	28
各部の名称とはたらき(2)	9	故障かなと思ったら	32
各部の名称とはたらき(3)	11	ブロックダイアグラム	33
接続のしかた	13	参考仕様	34
スーパーインポーズについて	18	ヤマハホットラインサービスネットワーク	35
操作のしかた	19		

特長



本機は、ヤマハ最新のデジタル技術・音場処理技術を駆使し、ハイクオリティなオーディオ特性の追及と、同時に発展型AVシステムのコントロールセンターとしてお使いいただけるよう設計されたステレオアンプです。

●多機能 入・出力コントロール装備

本機はオーディオ10系統、ビジュアル6系統の入力端子およびオーディオ4系統、ビジュアル3系統4出力の出力端子を装備。さらに、オーディオ、ビジュアル各々を、独立選択可能なインプットセレクター、およびレックアウトセレクターなど、AVコントロールセンターとしての機能をフルに搭載しています。加えて、S-VHS、EDベーター方式対応のSビデオ入・出力端子も装備しました。

●8モード、デジタルサラウンドプロセッサー内蔵

新開発のヤマハオリジナルICによる8モード・デジタルサラウンドプロセッサーを内蔵。簡単にサラウンド再生をお楽しみいただけます。

また、サラウンド効果の幅を広げるディレイタイムもコントロールすることができます。

●スーパーインポーズ機能装備

操作状況をモニターに表示する、2モードのスーパーインポーズにより操作の状況を明確にしました。

●タイトルエディット機能装備

表示内容、全111キャラクターが使えるタイトルエディット機能は、ビジュアルソースの録画やダビングの際に、オリジナリティ豊かなタイトルを付加することができます。

●水平解像度700本対応のビデオエンハンサー搭載

3モードをコントロールする輝度信号子測型ビデオエンハンサーは、広帯域ビデオアンプの搭載により水平解像度700に対応。高解像度モニターテレビに充分対応しています。

●高性能ディスクリット構成パワーアンプ搭載

メインA (70W+70W/6Ω)とメインB (15W+15W/6Ωまたは30W/12Ω:BTL接続時)の4chパワーアンプを搭載しました。メインAはフロントメイン用またはリア用、メインBはリア用またはフロントセンター用として使い分けできる、フレキシブル設計です。

●新開発のセンターチャンネル出力回路

従来回路方式に比較し、セパレーションを2倍に拡大した、本機のセンターチャンネル出力回路は、センターの定位感を飛躍的に高めました。

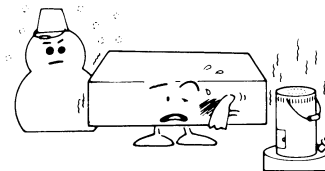
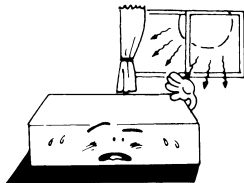
●ラーニングリモコンを標準装備

本体とRSマーク付き機器の操作に加え、メモリー機能のある44のキーを持つラーニングリモコンを装備。本リモコン1台で本機に接続されるほとんどの機器をコントロールすることが可能になりました。

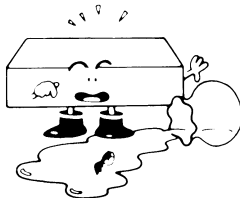
豊かなAVライフのために

高温・低温はさけて！

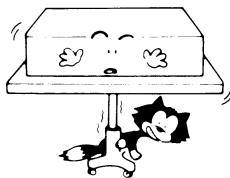
窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



ほこり・水気をさけて！

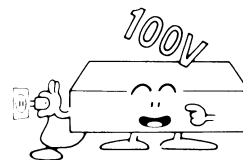


不安定な場所をさけて！

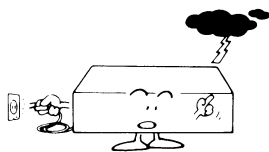


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

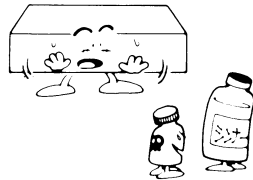


雷が近づいたら

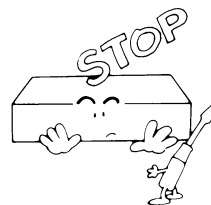


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

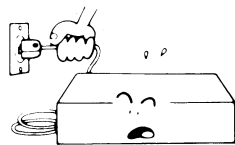
薬物厳禁



開けないで！

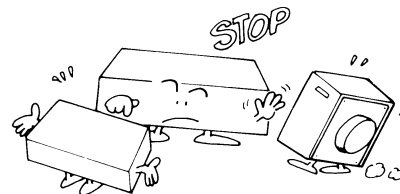


引っばらないで！



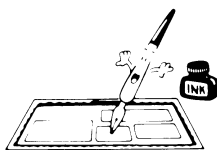
チューナやテレビと近付けない！

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。チューナやテレビなどとはできるだけ離して設置してください。障害をなくすために、チューナやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。



保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



こわれた？

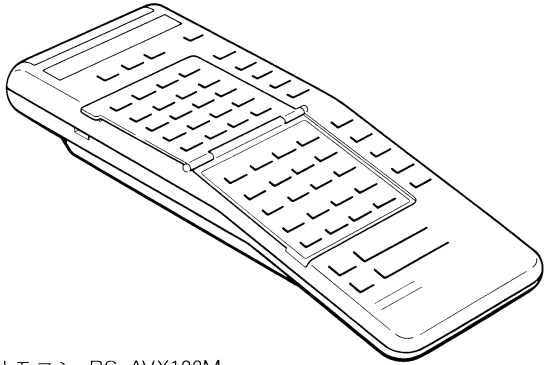


32ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

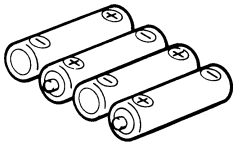
ご使用のまえに

■付属品をご確認ください。

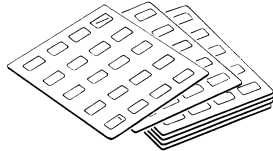
付属品は8種類あります。



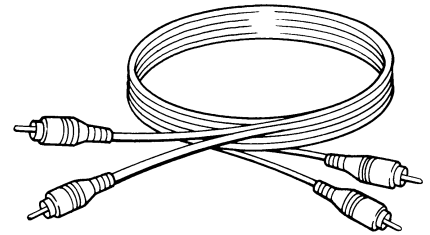
・リモコン RS-AVX100M



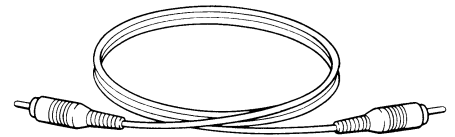
・単3乾電池 4本



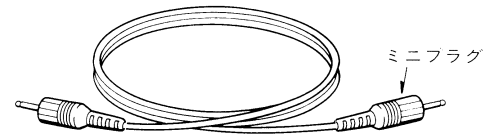
・シール 1セット(8種類、9枚)



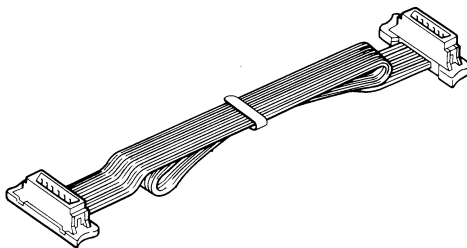
・ピンプラグコード(音声用ピンプラグコード)×1



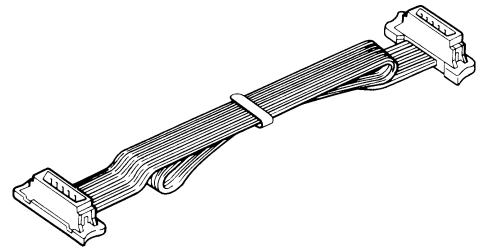
・ピンプラグコード(映像用ピンプラグコード)×1



・リモコンケーブル(レコードプレーヤー用)



・リモコンケーブル(6 pin)(カセットデッキ用)



・リモコンケーブル(5 pin)(チューナー用)

■設置場所について

本機を設置の際は通気性の良い場所を選び、放熱を妨げないようにしてください。

また、本機はデジタル機器ですので、本機を使用中は他の機器に影響を与えることがあります。テレビ画面が乱れたり、チューナーに雑音が混入するようなときは、それらの機器と本機の設置場所を離してください。またテレビやチューナーが簡易型室内アンテナを使用している場合には、専用の屋外アンテナに換えますと、テレビやチューナーへの影響が軽減されることがあります。

本機をご使用にならないときは、本機のPOWERスイッチをOFFにしておいてください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

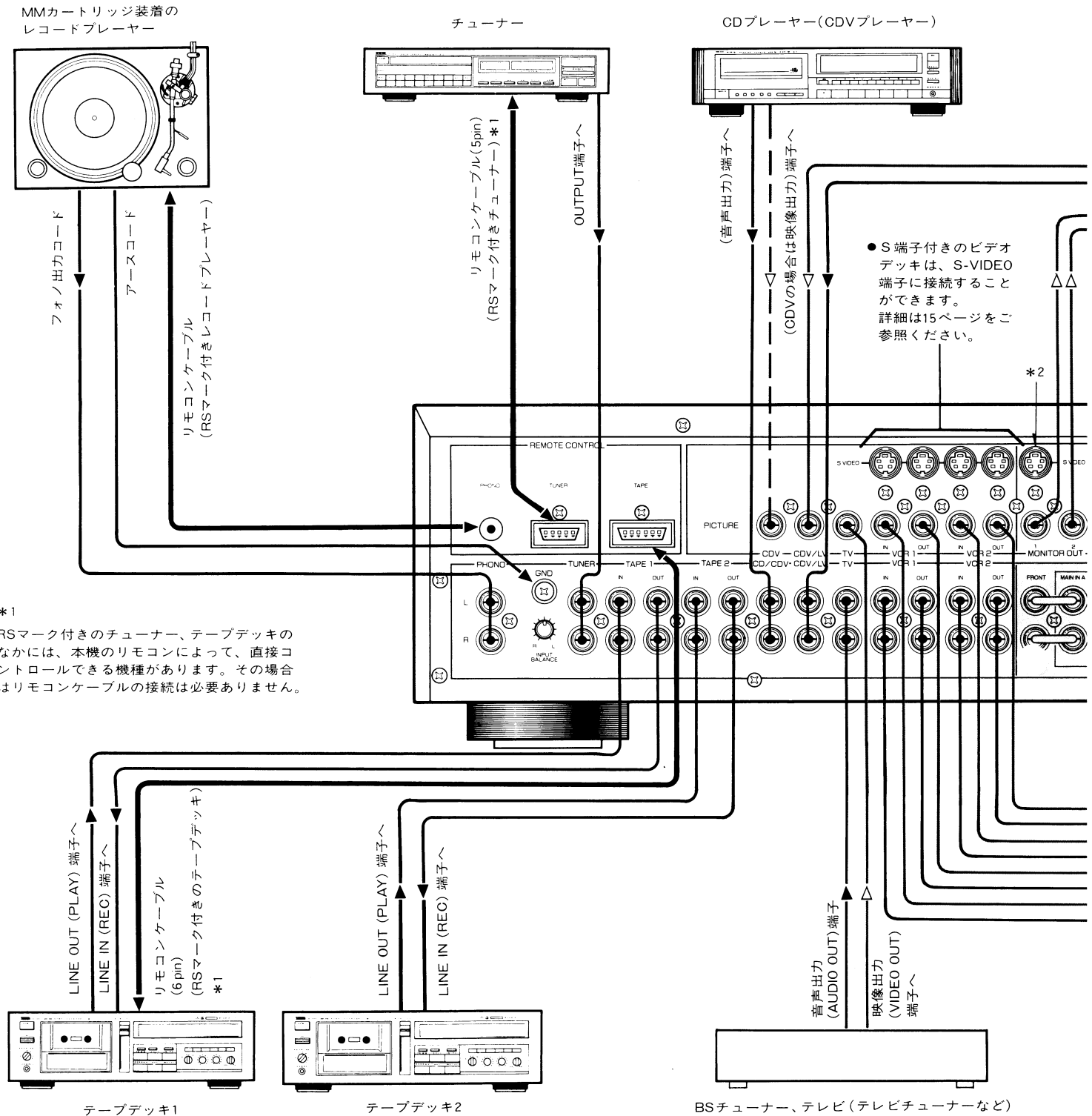
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

システム接続図

- 接続の際は各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、IN(入力)、OUT(出力)を確認して正しく接続してください。
- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もご参照ください。

- 接続に誤りがないことを確認してから、電源コードをACコンセントに差し込んでください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナーなど)に影響を与えるときは、それらの機器との設置場所を離してください。



*1
RSマーク付きのチューナー、テープデッキのなかには、本機のリモコンによって、直接コントロールできる機種があります。その場合はリモコンケーブルの接続は必要ありません。

システム接続図

●本機はアナログ接続専用です。接続する機器にアナログ、デジタルの両方がある場合は、アナログ入・出力端子を使って本機に接続してください。

●詳しい接続方法については13ページ～17ページをご参照ください。

*2

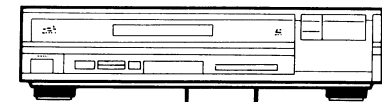
S端子付きのモニターテレビはS-VIDEO MONITOR OUT端子に接続することができます。詳細は15ページをご参照ください。

CDVプレーヤー(LVプレーヤー)

モニターテレビ1

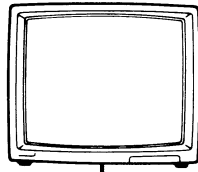
モニターテレビ2

スピーカーA
メイン(フロント)スピーカー

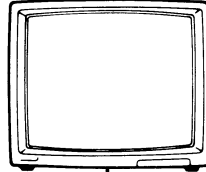


映像出力端子へ

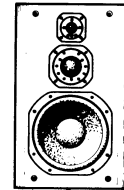
音声出力端子へ



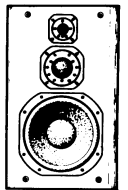
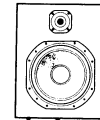
映像入力端子へ



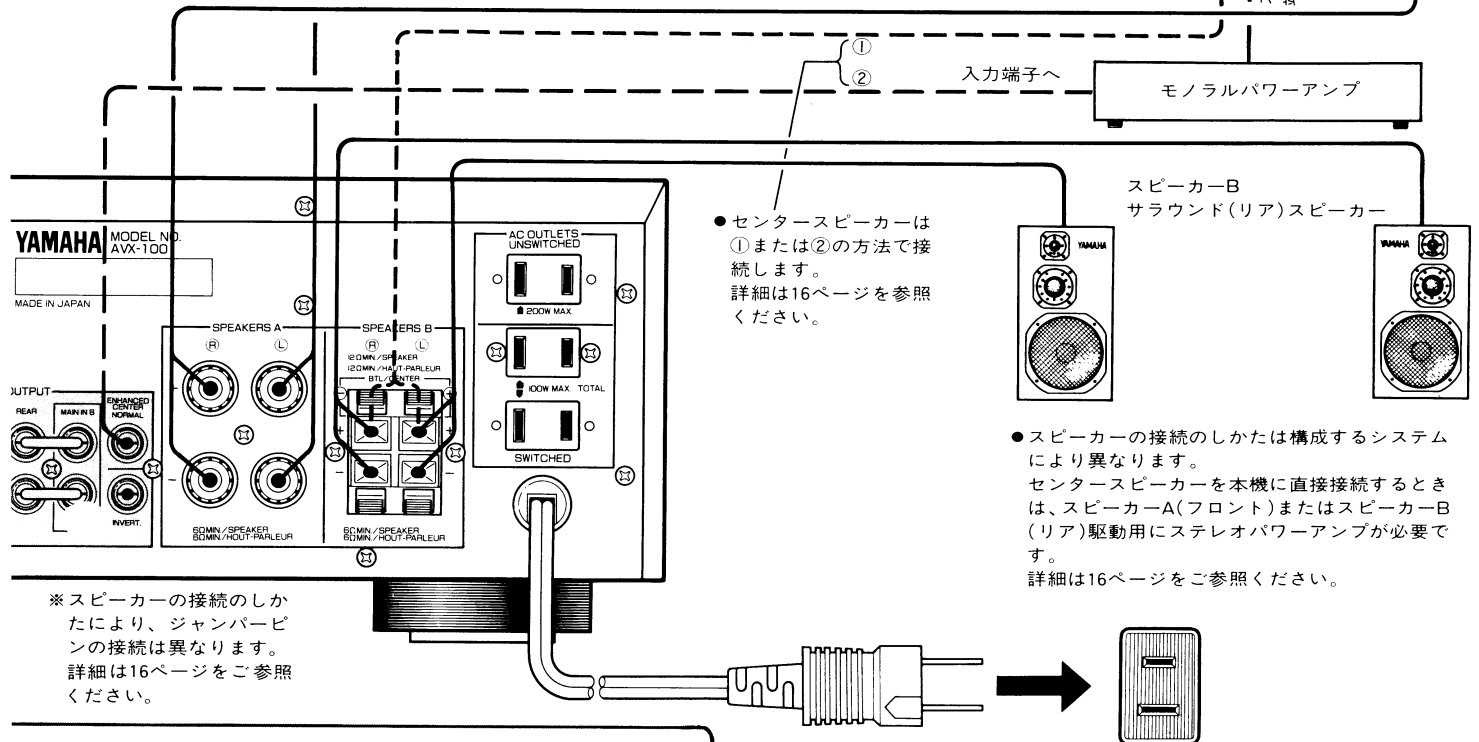
映像入力端子へ



センタースピーカー

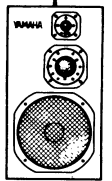
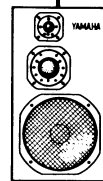


センタースピーカー



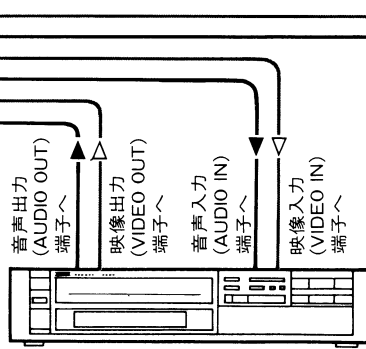
●センタースピーカーは①または②の方法で接続します。詳細は16ページを参照ください。

スピーカーB
サラウンド(リア)スピーカー

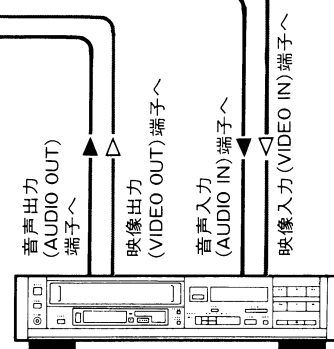


●スピーカーの接続のしかたは構成するシステムにより異なります。センタースピーカーを本機に直接接続するときは、スピーカーA(フロント)またはスピーカーB(リア)駆動用にステレオパワーアンプが必要です。詳細は16ページをご参照ください。

※スピーカーの接続のしかたにより、ジャンパーピンの接続は異なります。詳細は16ページをご参照ください。



ビデオデッキ1



ビデオデッキ2

—▶—▶—▶ : 音声(AUDIO)信号の流れ
—▷—▷—▷ : 映像(VISUAL)信号の流れ

各部の名称とはたらき (1)

レック アウト サウンド REC OUT SOUNDセクター

録音したいプログラムソースを選択するキーです。

このセクターで選択したオーディオソースは、INPUT SELECTOR, PICTURE SELECTORやREC OUT PICTUREセクターで選択しているプログラムソースとは関係なく、各オーディオOUT端子に出力されます。

例えば、INPUT SELECTORでTUNERを選択しFM放送を聞きながら、REC OUT SOUNDセクターでCDを選択し、CDをテープに録音したり映像(ビデオ)プログラムと別のオーディオプログラムを組合わせて録音・録画したりすることが同時に行えます。

- PHONO フオノ レコードを録音するとき。
- TUNER チューナー FM、AM放送などを録音するとき。
- TAPE 1 テープ TAPE 1のプログラムを録音するとき。
- TAPE 2 テープ TAPE 2のプログラムを録音するとき。
- CD/CDV シーディー CDまたはCDVの音声を録音するとき。
- CDV/LV シーディーブイ/エルヴイ CDVまたはLVの音声を録音するとき。
- TV ティーブイ BSチューナー、テレビの音声を録音するとき。
- VCR 1 ブイシーアール VCR 1の音声を録音するとき。
- VCR 2 ブイシーアール VCR 2の音声を録音するとき。
- AUX オーグ フロントパネルのAUX(補助入力端子)に接続した機器の音声を録音するとき。
- OFF オフ 録音をしないとき。(インジケータ消灯)

インジケータ

サウンド

INPUT SELECTORで選択された入力ソースはアンバー(琥珀)色、もしくは赤色*のインジケータが点灯、REC OUT SOUNDセクターで選択されたソースは赤色のインジケータが点灯します。

ピクチャー
PICTURE

PICTURE SELECTORで選択された入力ソースは緑色のインジケータが点灯、REC OUT PICTUREセクターで選択されたソースは赤色のインジケータが点灯します。

*フロントパネルの色がチタンカラーのときは、アンバー(琥珀)色、ブラックのときは赤色となります。

レック アウト ピクチャー REC OUT PICTUREセクター

ビデオデッキなどで録画やダビングをする場合にビジュアルソースの映像を選択するキーです。

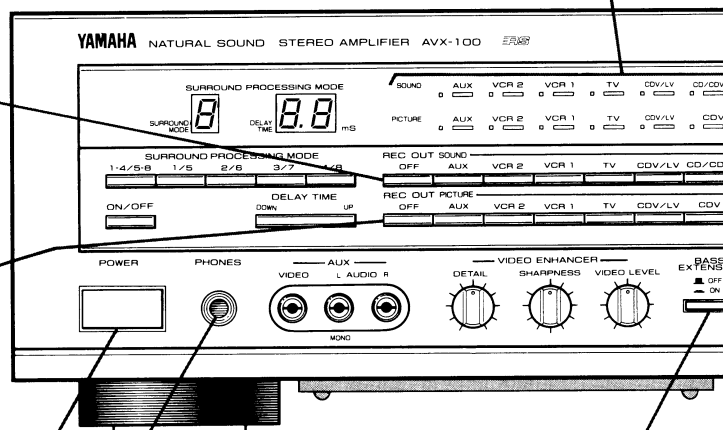
OFF以外のキーを押しますと、上側の対応した赤色のインジケータが点灯します。

- CDV シーディーブイ CDVの映像を録画するとき。
- CDV/LV シーディーブイ/エルヴイ CDVまたはLVの映像を録画するとき。
- TV ティーブイ BSチューナー、テレビなどの映像を録画するとき。
- VCR 1 ブイシーアール VCR 1の映像を録画するとき。
- VCR 2 ブイシーアール VCR 2の映像を録画するとき。
- AUX オーグ AUX端子に接続した機器の映像を録画するとき。
- OFF オフ 録画をしないとき。(インジケータ消灯)

パワー POWERスイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。

- ONにしますとボリューム、SOUNDその他のインジケータが点灯します。



バス イクステンション BASS EXTENSIONスイッチ

再生するソースより、低音域を補正したいときには、このスイッチをONにします。

- ソースによっては効果が顕著に現れないことがあります。

ホーンズ PHONESジャック

ステレオヘッドホンでモニターするときは、このジャックに接続します。

ヘッドホンを接続しますと、スピーカーからの音はでなくなります。

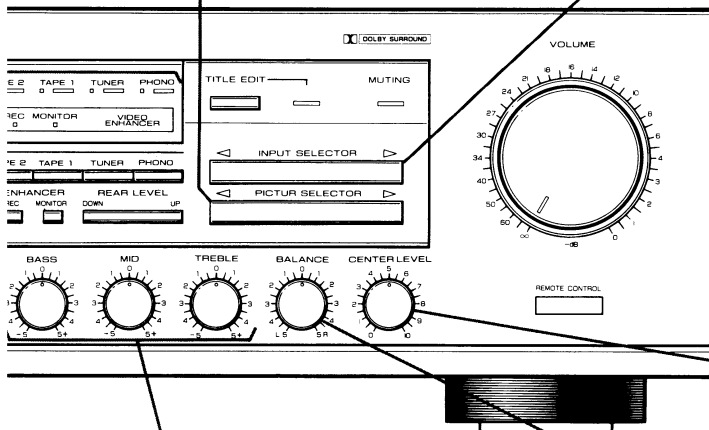
各部の名称とはたらき(1)

ビジュアルソースセレクター PICTURE SELECTORキー

ビジュアルソースを選択するキーです。
 ▷を押しますとPICTUREのインジケーターが左から右への移動を繰り返します。
 ◁を押しますとPICTUREのインジケーターが右から左への移動を繰り返します。
 再生するビジュアルソースのインジケーターを点灯させます。
 CD/CDV CDプレーヤーあるいはCDVプレーヤー
 CDV/LV CDVプレーヤーあるいはLVプレーヤー
 TV BSチューナー、テレビなど。
 VCR 1 ビデオデッキ 1
 VCR 2 ビデオデッキ 2
 AUX フロントパネルのAUX(補助入力端子)に接続したビジュアル機器

入力ソースセレクター INPUT SELECTORキー

プログラムソースを選択します。
 ▷を押しますとSOUNDおよびPICTUREのインジケーターが左から右への移動を繰り返します。
 ◁を押しますとSOUNDおよびPICTUREのインジケーターが右から左への移動を繰り返します。
 再生したいプログラムソースのインジケーターを点灯させます。
 ●INPUT SELECTORで音声と映像を同時に選択することができますが、映像はPICTURE SELECTORで音声と独立して選択することができます。
 PHONO レコードプレーヤー
 TUNER チューナー
 TAPE 1 テープデッキ 1
 TAPE 2 テープデッキ 2
 CD/CDV CDプレーヤーあるいはCDVプレーヤー
 CDV/LV CDVプレーヤーあるいはビデオディスクプレーヤー
 TV BSチューナー、テレビなど。
 VCR 1 ビデオデッキ 1
 VCR 2 ビデオデッキ 2
 AUX フロントパネルのAUX(補助入力端子)に接続した機器



センターレベル CENTER LEVELコントロール

リアパネルのCENTER端子からアンプを経由して接続したスピーカーの音量を調整します。
 右に回しますと音量が大きくなり、左に回しますと音量が小さくなります。

トーンコントロール TREBLEコントロール

高音域を±10dBの範囲でコントロールします。つまみを右に回しますとブースト(増強)され、左に回しますとカット(減衰)されます。"0"の位置ではフラットな周波数特性となります。

ミッド MIDコントロール

中音域を±10dBの範囲でコントロールします。つまみを右に回しますとブースト(増強)され、左に回しますとカット(減衰)されます。"0"の位置ではフラットな周波数特性となります。

バス BASSコントロール

低音域を±10dBの範囲でコントロールします。つまみを右に回しますとブースト(増強)され、左に回しますとカット(減衰)されます。"0"の位置ではフラットな周波数特性となります。

●トーンコントロールで調整できるのは、メイン(フロント)スピーカーおよびセンタースピーカーです。リア(サラウンド)スピーカーは調整できません。

バランス BALANCEコントロール

メインスピーカーおよびリアスピーカーの左右の音量バランスを調整します。
 左に回しますと、右のスピーカーの音量が小さくなり、右に回しますと、左のスピーカーの音量が小さくなります。

各部の名称とはたらき (2)

SURROUND PROCESSING MODEインジケータ
サラウンド プロセッシング モード
 SURROUND MODE SURROUND PROCESSING MODE
 キーで選択したサラウンドモードの番号を表示します。
ディレイ タイム
 DELAY TIME 各サラウンドモードに設定されているディレイタイムを表示します。

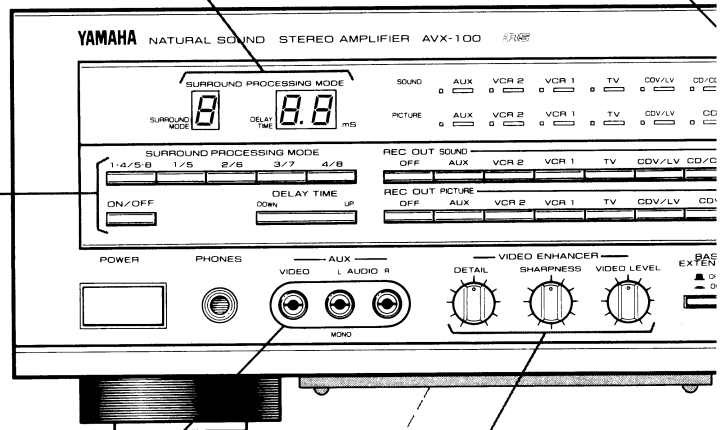
VIDEO ENHANCERインジケータ
ビデオ エンハンサー
 VIDEO ENHANCER RECキーを押しますと、点灯します。
モニター
 MONITOR VIDEO ENHANCER MONITORキーを押しますと、点灯します。

SURROUND PROCESSING MODEキー
サラウンド プロセッシング モード
 サラウンド再生をするときに使用するキーです。
オン オフ
 ON/OFF サラウンド再生をするときは、このキーを押します。再度このキーを押しますとサラウンド再生は解除されます。ONのときはインジケータが点灯し、OFFのときは消灯します。
 1-4/5-8 サラウンドモードの1～4あるいは5～8を選択するキーです。
 1/5～4/8 8種類のサラウンドモードを選択するキーです。
ディレイ タイム
 DELAY TIME サラウンド再生時にディレイタイムを調整するキーです。
 ●サラウンド再生の詳細は21ページをご参照ください。

TITLE EDIT キーを押して、タイトルエディットをするときにも、このキーを使います。
 ●詳細は「タイトルエディットのしかた」(25ページ)をご参照ください。

キー機能説明パネル
 サラウンド再生時とタイトルエディット時のSURROUND PROCESSING MODE キーの機能説明パネルです。必要なときは、引き出してご覧ください。

AUX端子
 ビジュアル機器用の予備端子です。
 機器の映像出力端子とVIDEO端子を、音声出力端子とAUDIO L、R端子を接続します。
 ●機器の音声出力がモノラルの場合はL/MONO端子に接続します。



VIDEO ENHANCERコントロール
ビデオ エンハンサー
ビデオ レベル
 VIDEO LEVEL ビジュアル信号のレベルを調整します。右に回しますと画面が明るくなり、左に回しますと画面が暗くなります。
シャープネス
 SHARPNESS センター位置から右に回しますと、画像の輪郭が強調され、シャープになります。
ディテール
 DETAIL センター位置から右に回しますと、画像の細部が強調され、左に回しますと画像がソフトになります。
 ●S端子に接続したビデオデッキやモニターテレビの画像を調整することはできません。

各部の名称とはたらき(2)

ビデオ エンハンサー VIDEO ENHANCERキー

REC VIDEO ENHANCERコントロールで調整した画像を録画するときに押します。

MONITOR VIDEO ENHANCERコントロールで調整した画像をモニターするときに押します。

タイトル エディット TITLE EDITキー／インジケータ

録画やダビングの際にタイトルを付加するときに使います。このキーはフェイルセーフ機能がありますので、タイトルエディットをするときは、インジケータが点滅から点灯に変わるまでキーを押し続けてください。

ミュートインジケータ MUTINGインジケータ

リモコンのMUTEキーを押しますと、このインジケータが点灯します。ミュート中は音量が-20dB (1/10) に下がります。

ボリューム VOLUMEコントロール

スピーカーシステムの音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。

リモート コントロール REMOTE CONTROL受光窓

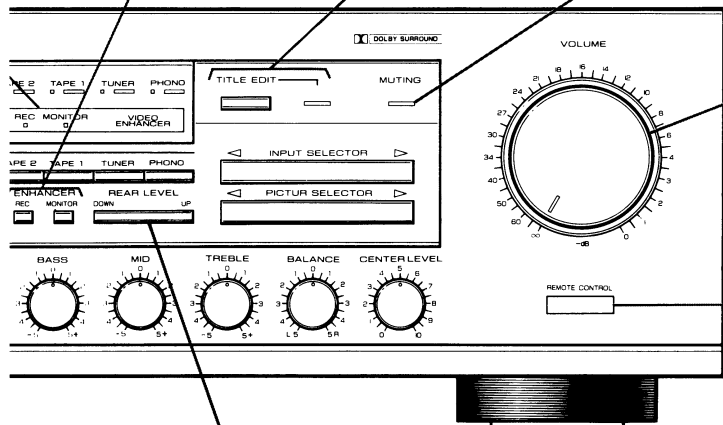
付属のリモコンRS-AVX100Mからのコントロール信号(赤外線)を受光するところです。

リモコンで操作する場合は、リモコンの送信窓を正しくこの受光窓に向けてください。

リア レベル REAR LEVELコントロール

リアパネルのREAR端子からアンプを経由して接続したスピーカーの音量を調整します。

UP側を押しますと音量が大きくなり、DOWN側を押しますと音量が小さくなります。



各部の名称とはたらき (3)

リモートコントロール
REMOTE CONTROL 端子

PHONO RSマークのあるレコードプレーヤーを付属のリモコンケーブルで接続します。

TUNER RSマークのあるチューナーを付属のリモコンケーブル(5pin)で接続します。

TAPE RSマークのあるカセットデッキを付属のリモコンケーブル(6pin)で接続します。

RSマーク付きのチューナー、テープデッキのなかにはリモコンで直接コントロールできる機種があります。その場合は接続は必要ありません。

ピクチャービデオ
PICTURE (映像) 入力・出力端子

S-VIDEO ビデオデッキの入・出力S端子と接続します。VCR 1、VCR 2に2台のビデオデッキを接続することができます。

CDV CDVプレーヤーの映像出力端子と接続します。

CDV/LV CDVプレーヤーまたはビデオディスクプレーヤーの映像出力端子と接続します。

TV BSチューナー、テレビなどの映像出力端子と接続します。

VCR 1 ビデオデッキの映像入・出力端子と接続します。

VCR 2 2台目のビデオデッキを接続します。

音声入力・出力端子

PHONO MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続します。

- MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいはMCヘッドアンプをご使用になって、本端子に接続してください。

GND レコードプレーヤーにアース線がある場合は、ここに接続します。

INPUT BALANCE 入力信号のL、Rバランスを調整します。

- 詳細は「サラウンド再生について」21ページを参照ください。

TUNER チューナーを接続します。

TAPE 1 テープデッキまたはDATのアナログ入・出力端子を接続します。

TAPE 2 2台目のテープデッキまたはDATのアナログ入・出力端子を接続します。

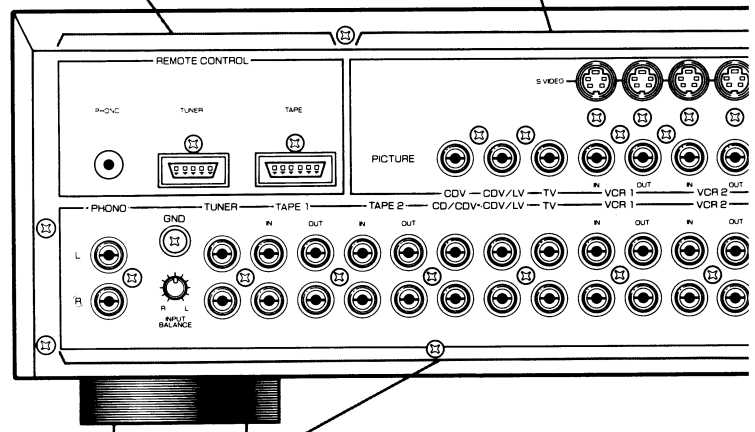
CD/CDV CDプレーヤーまたはCDVプレーヤーの音声出力端子と接続します。

CDV/LV CDVプレーヤーまたはビデオディスクプレーヤーの音声出力端子と接続します。

TV BSチューナー、テレビなどの音声出力端子と接続します。

VCR 1 ビデオデッキの音声入・出力端子を接続します。

VCR 2 2台目のビデオデッキの音声入・出力端子を接続します。



各部の名称とはたらき(3)

モニターアウト端子

ビデオ
S-VIDEO モニターテレビの入力S端子と接続します。
1、2 モニターテレビの映像入力端子と接続します。
 2台のモニターテレビを接続することができます。

AC OUTLET (電源供給コンセント)

アンスイッチド UNSWITCHED

本機のPOWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力が200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

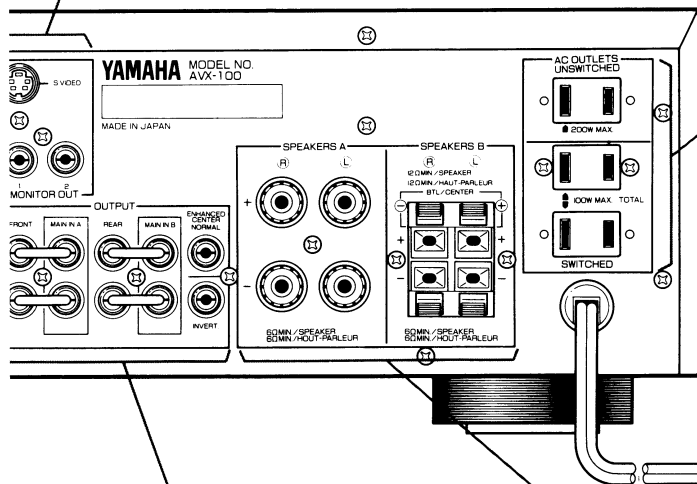
スイッチド SWITCHED

本機のPOWERスイッチと連動しています。2つのAC OUTLETの合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

●本機のAC OUTLETには極性表示(電源トランスの巻き始め側を▲表示)されています。これは、各機器の極性を合わせるためです。本機に接続する機器の電源プラグに極性表示がある場合は、極性を合わせて接続してください。

電源コード

本機の消費電力は180Wです。必ず壁の家庭用AC100V 50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。また、接続の際はプラグの"◻"マークされた側のブレードをコンセントの長い方の穴に差し込んでください。



アウトプット OUTPUT端子

フロント
FRONT フロント(メイン)の信号が出力されます。
メイン イン
MAIN IN A Aアンプの入力端子です。
リア
REAR リアの信号が出力されます。
メイン イン
MAIN IN B Bアンプの入力端子です。
エンハンスド センター
ENHANCED CENTER
ノーマル
NORMAL センター信号が出力されます。
インバート
INVERT センター信号が逆相で出力されます。

●OUTPUT端子の詳細は16ページをご参照ください。

スピーカー SPEAKER A端子

Aアンプ(MAIN IN A)用のスピーカー端子です。

スピーカー SPEAKER B端子

Bアンプ(MAIN IN B)用のスピーカー端子です。

●本端子にセンタースピーカーを接続するときは、BTL接続をすることができます。

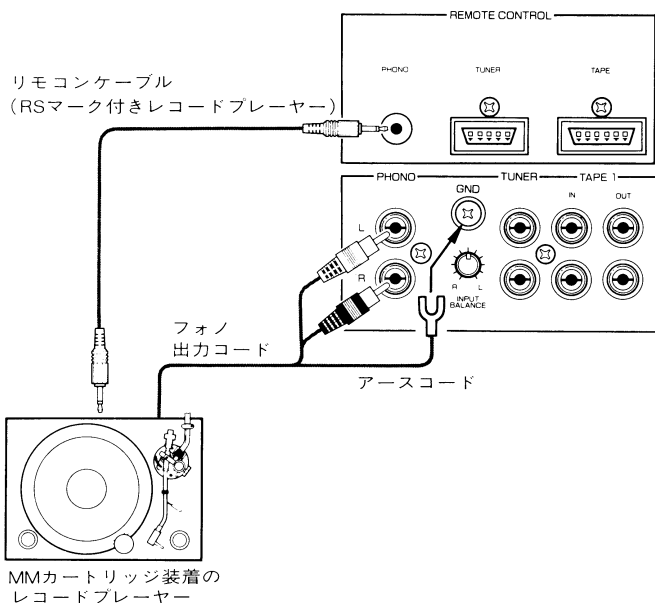
●スピーカー端子の詳細は"スピーカーの接続のしかた"17ページをご参照ください。

接続のしかた

- 接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてください。
- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。
- 接続するときは、各機器のIN (入力) OUT (出力) およびL (左チャンネル) R (右チャンネル)を確認し、確実に接続してください。
- 本機のビジュアル系の入・出力端子は黄色、オーディオ系の入・出力端子のLチャンネルは白色、Rチャンネルは赤色になっています。
- 接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードをACコンセントに接続してください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与えるようなときは、本機とその機器の設置場所を少し離してください。

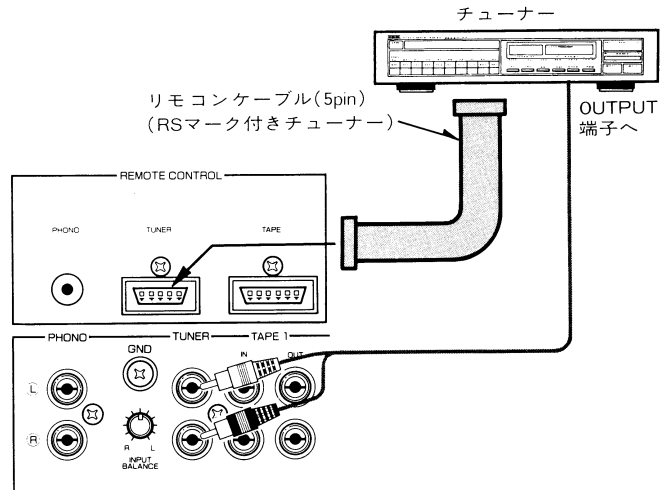
レコードプレーヤーの接続

- ① MMカートリッジ付きレコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線をGND端子に接続します。
 - MCカートリッジ付きレコードプレーヤーを使う場合は、本機とレコードプレーヤーの間に昇圧トランスあるいはMCヘッドアンプを接続します。詳しくは、昇圧トランスあるいはMCヘッドアンプの取扱説明書をご覧ください。
- ② RSマーク付きレコードプレーヤーと接続する場合は、付属のミニプラグ付きリモコンケーブルでレコードプレーヤーと本機のREMOTE CONTROL端子を接続します。



チューナーの接続

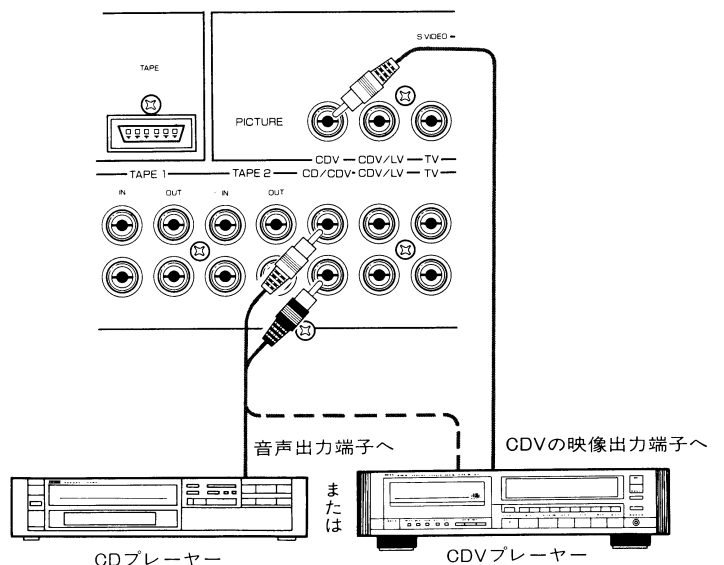
チューナーの出力端子と本機のTUNER端子をピンプラグコードで接続します。RSマーク付きチューナーをご使用になる場合は、付属のリモコンケーブル(5ピン)を使用してチューナーのリモコン端子と本機のREMOTE CONTROL端子を接続します。



CD(コンパクトディスク)プレーヤーまたはCDVプレーヤーの接続

CDプレーヤーまたはCDVプレーヤーの音声出力端子と本機の音声CD/CDV端子(白、赤)をピンプラグコードで接続します。CDVプレーヤーは、映像出力端子と本機のPICTURE CDV端子(黄)をピンプラグコード(1本)で接続します。

- CDプレーヤーは映像の接続をする必要はありません。



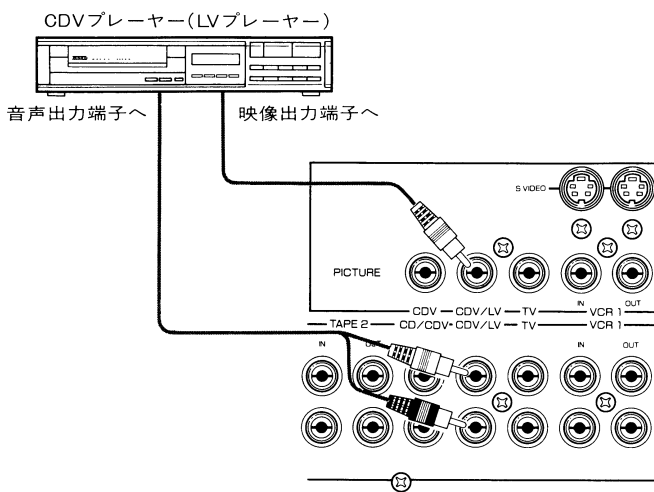
CDVプレーヤーまたはLV(ビデオディスク)プレーヤーの接続

「映像出力端子の接続」

CDVまたはLVプレーヤーの映像出力端子と、本機のPICTURE CDV/LV端子(黄)をピンプラグコードで接続します。

「音声出力端子の接続」

CDVまたはLVプレーヤーの音声出力端子と、本機の音声CDV/LV端子(白、赤)をピンプラグコードで接続します。



テレビ端子への接続

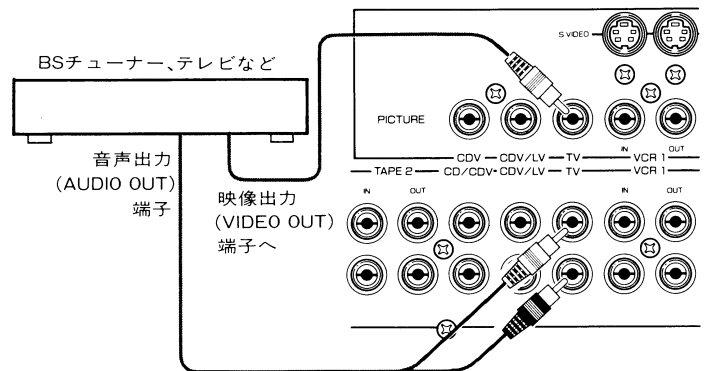
「映像出力端子の接続」

BSチューナーやテレビなど、ビデオ機器の映像出力端子と、本機のPICTURE TV端子(黄)をピンプラグコードで接続します。

「音声出力端子の接続」

BSチューナーやテレビなど、ビデオ機器の音声出力端子と、本機の音声TV端子(白、赤)をピンプラグコードで接続します。

- BSチューナーは、必ずアナログ入・出力端子を使って接続してください。

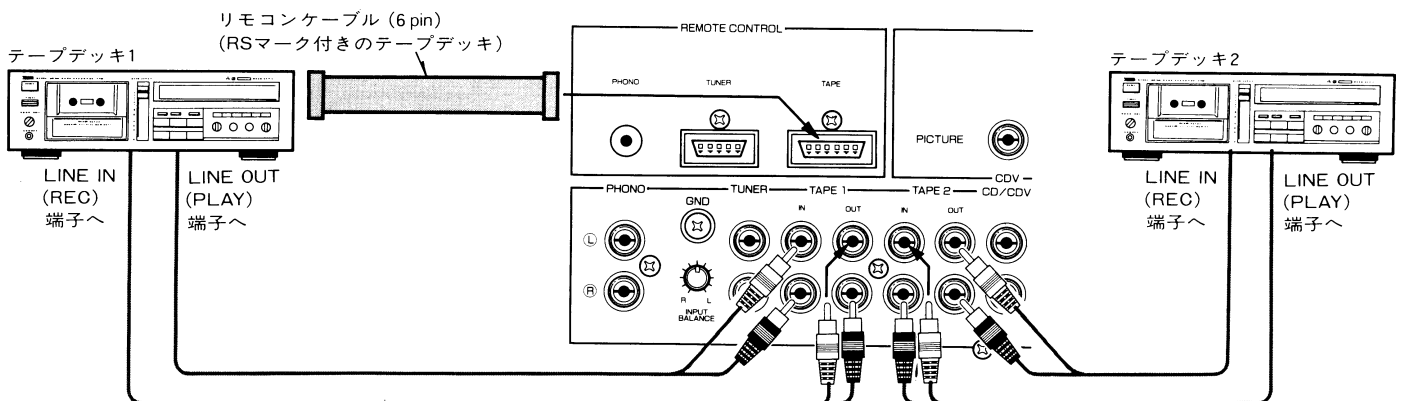


テープデッキの接続

テープデッキの出力端子(LINE OUT/PLAY)と、本機のTAPE 1 IN端子(白、赤)、およびテープデッキの入力端子(LINE IN/REC)と、本機のTAPE 1 OUT端子(白、赤)をピンプラグコードで接続します。

RSマーク付きテープデッキをご使用になる場合、付属のリモコンケーブル(6ピン)を使用してテープデッキのリモコン端子と本機のREMOTE CONTROL端子を接続します。

- 同様の方法で2台目のテープデッキをTAPE 2端子に接続します。
- DAT(デジタルオーディオテープデッキ)はTAPE端子に接続します。
DATは、必ずアナログ入・出力端子を使って接続してください。



接続のしかた

ビデオデッキ(VCR)の接続

「映像入・出力端子の接続」

ビデオデッキの映像出力端子と、本機のPICTURE VCR 1 IN端子間(黄)、およびビデオデッキの映像入力端子と、本機のPICTURE VCR 1 OUT端子(黄)間を、ピンプラグコードで接続します。

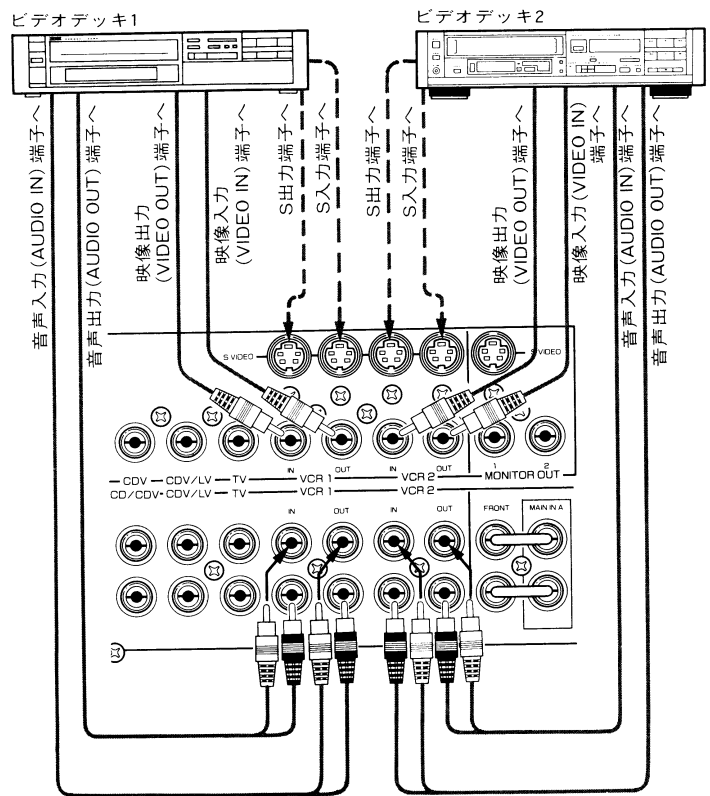
■ S端子付きビデオデッキは

ビデオデッキのS出力端子と、本機のS-VIDEO IN端子間、ビデオデッキのS入力端子と、本機のS-VIDEO OUT端子間を、専用コードで接続します。

「音声入・出力端子の接続」

ビデオデッキの音声出力端子と、本機の音声VCR 1 IN端子(白、赤)間、およびビデオデッキの音声入力端子と、本機の音声VCR 1 OUT端子(白、赤)間を、ピンプラグコードで接続します。

- 同様の方法で2台目のビデオデッキはVCR 2に接続することができます。
- VCR=ビデオデッキ(ビデオテープレコーダー)



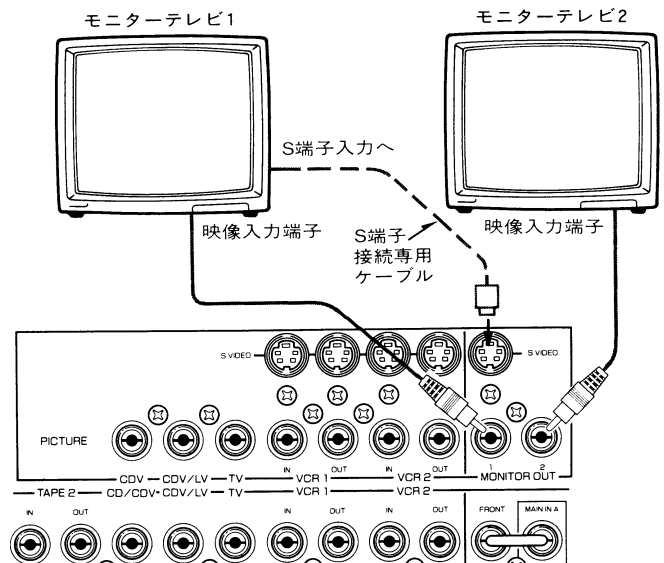
S入・出力端子について

- S入・出力端子とピンジャック入・出力端子は別個の回路構成になっていますので、独立して機能します。
- S入力はREC OUT PICTURE SELECTORに関係なく、常にS-VIDEO OUT端子に出力されていますので、S端子付きのビデオデッキ同士では常にダビングが可能です。
- S入力のINPUT SELECTORとピンジャック入力のINPUT SELECTORは連動しています。S入力のないソースを選択している場合は、S端子のMONITOR OUTには信号は出力されません。
- VCR 1 (またはVCR 2)のS端子と、ピンジャック端子の両方に接続されている場合、VCR 1 (またはVCR 2)をINPUT SELECTORで選択しますと、両方に信号が出力されます。S信号かピンジャック信号のどちらをモニターするかはMONITOR側で選んでください。
 - * S端子の詳細はご使用になるモニターテレビの取扱説明書をご参照ください。
- スーパーインポーズ、エンハンサーはピンジャック信号専用の回路となっているため、S端子に接続した機器では使えません。
- * S端子使用時の注意
 - 本機の回路構成上VCR 1とVCR 2のS-VIDEO OUT端子は、機器に接続しないケーブルを差し込んだまま(ケーブルの片方のコネクタのみ接続し、もう一方のコネクタを遊ばせている状態)使用しないでください。

モニターテレビの接続

モニターテレビの映像入力端子と、本機のMONITOR OUT端子(黄)をピンプラグコードで接続します。

- 2台のモニターテレビを接続することができます。
- S端子付きのモニターテレビはMONITOR OUTのS-VIDEO端子に接続します。

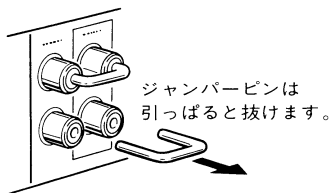


OUTPUT端子とスピーカー接続について

本機はフロント側のプリアウト (FRONT端子) とリア側のプリアウト (REAR端子) およびCENTER端子を持ち、また、メインアンプは70W+70WのMAIN IN Aと15W+15W (または30W/12Ω: BTL接続時)のMAIN IN Bの2つのアンプを内蔵しています。

OUTPUT端子のジャンパーピンを差し込みかたを変えることにより駆動するアンプとスピーカーの組合せを選ぶことができます。

- ジャンパーピンを抜き差しするときは、必ず電源をOFFにしてください。

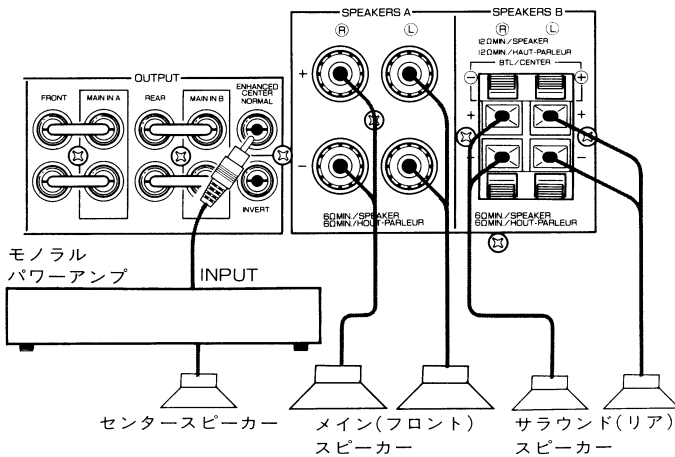


■システム1

工場出荷時のシステムです。

SPEAKERS Aでメイン(フロント)スピーカーを、SPEAKERS Bでサラウンド(リア)スピーカーをドライブします。

- センタースピーカーはENHANCED CENTERの上側の端子に市販のピンプラグコードで、別のパワーアンプを接続し駆動します。
- ENHANCED CENTER INVERT端子は使用しません。



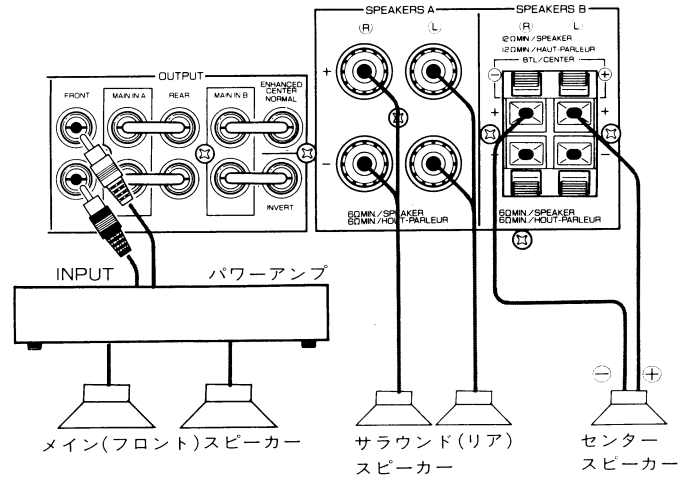
■システム2

SPEAKERS Aでサラウンド(リア)スピーカーを、SPEAKERS BのBTL接続でセンタースピーカーを駆動します。

- メイン(フロント)スピーカーは、OUTPUT FRONT端子に別のパワーアンプを市販のピンプラグコードで接続し、駆動します。
- ①REAR端子とMAIN IN A端子をジャンパーピンで接続します。
 - ②FRONT端子とパワーアンプの入力端子を接続します。

メイン(フロント)スピーカーはパワーアンプに接続し、サラウンド(リア)スピーカーは本機に接続します。

- ③ENHANCED CENTERのNORMAL、INVERT端子それぞれとMAIN IN B端子をジャンパーピンで接続します。

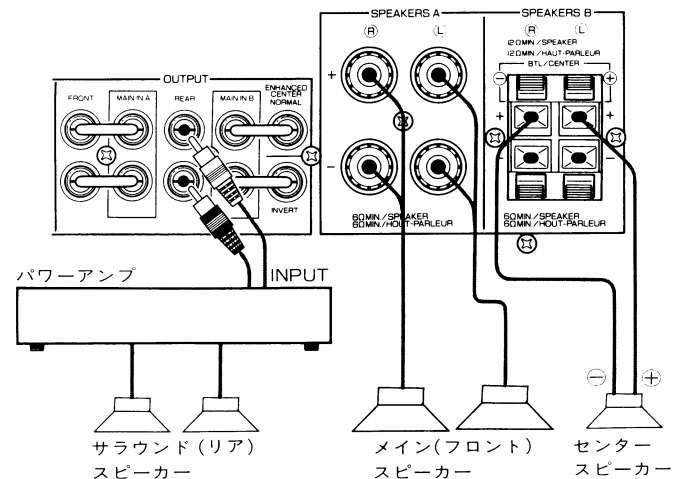


■システム3

SPEAKERS Aでメイン(フロント)スピーカーを、SPEAKERS BのBTL接続でセンタースピーカーをドライブします。

- サラウンド(リア)スピーカーは、OUTPUT REAR端子に別のパワーアンプを市販のピンプラグコードで接続し、駆動します。

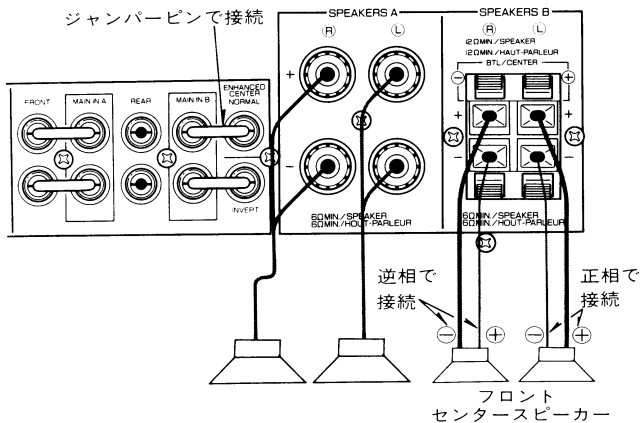
- ①FRONT端子とMAIN IN A端子をジャンパーピンで接続します。
- ②REAR端子とパワーアンプの入力端子を接続します。このとき、メイン(フロント)スピーカーは本機に、サラウンド(リア)スピーカーはパワーアンプに接続します。
- ③ENHANCED CENTER端子のNORMAL、INVERT端子それぞれとMAIN IN B端子をジャンパーピンで接続します。



接続のしかた

■システム4

フロントセンターに2台のスピーカーを設置するとき ENHANCED CENTER の NORMAL、INVERT 端子それぞれをMAIN IN B 端子にジャンパーピンで接続し、片方のスピーカーをSPEAKER B のⓁchに正相で接続し、もう一台のスピーカーをⓇchに⊕⊖逆相で接続します。



* スピーカーレイアウトについては21ページをご参照ください。

スピーカーシステムの接続

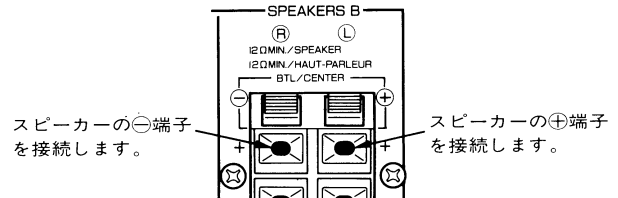
(フロント用の)スピーカーAと、(リア用の)スピーカーBに2組のスピーカーシステムを接続することができます。

右側に設置するスピーカーのコードを、SPEAKERS 端子のRに、左側に設置するスピーカーのコードを、SPEAKERS 端子のLに、極性(+)、(-)を確認して確実に接続してください。極性を間違えますと、低音の損なわれた不自然な再生音となります。ご注意ください。

●BTL接続について

スピーカーB端子はBTL接続をしますと、30W/12Ωのモノラルアンプとして働きます。BTL接続をする場合は、スピーカーの接続方法が異なります。ご注意ください。

16ページのシステム3の項もご参照ください。



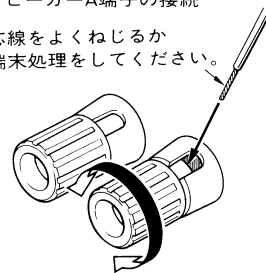
* スピーカーAの定格出力は70W/6Ω、スピーカーBの定格出力は15W/6Ω (BTL接続時は30W/12Ω)です。接続するスピーカーの定格入力にご確認ください。

* 接続の際は、スピーカーコードの芯線をよくねじるか端末処理を施し、お互いに、ショートしないようにご注意ください。

* スピーカーA端子はバナナプラグを使用することができます。この場合、端子を強くしめてからご使用ください。

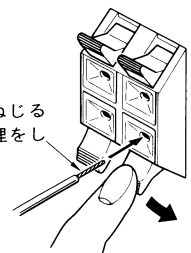
スピーカーA端子の接続

芯線をよくねじるか
端末処理をしてください。



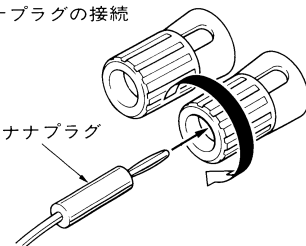
スピーカーB端子の接続

芯線をよくねじるか、
端末処理をしてください。



バナナプラグの接続

バナナプラグ

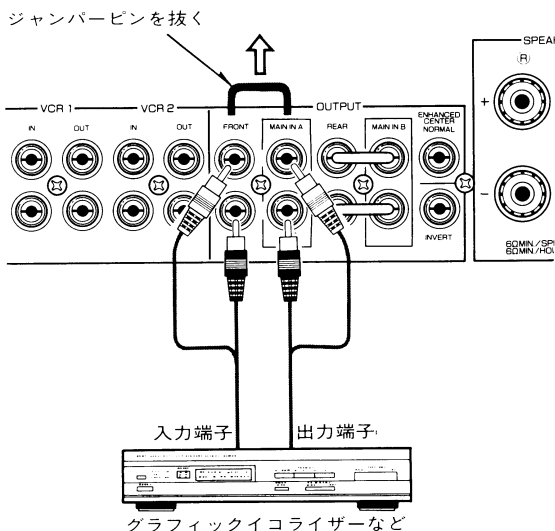


その他の機器の接続

グラフィックイコライザーなどの機器を接続する際は、ジャンパーピンを抜き、接続する機器の入力端子と本機のFRONT 端子、出力端子と本機のMAIN IN A端子をピンプラグコードで接続します。

* 詳細はご使用になる機器の取扱説明書をご参照ください。

* 通常の使用の場合(機器を接続しない場合は、必ずジャンパーピンを差し込んでおいてください。ジャンパーピンが抜けていますと音は出ません。



スーパーインポーズについて

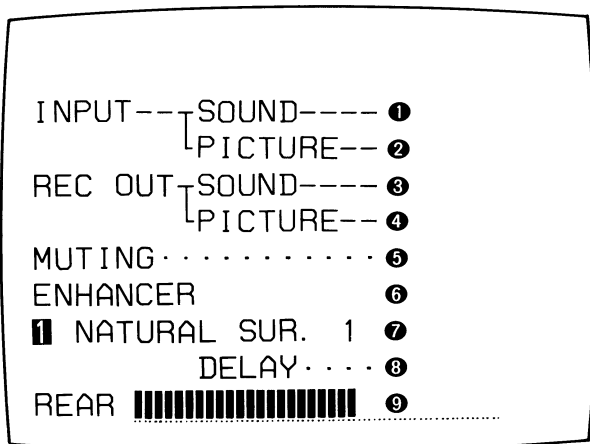
リモコンのDISPLAYキーを押しますと、本機のお作状況をモニター画面に表示することができます。

DISPLAYキーは押すごとに表示モードをフル→ショート→オフに換えることができます。

- ビジュアルソースが入力されていないときは、ブルーのバックにスーパー表示されます。
- この機能は、本機のおMONITOR OUT端子とテレビモニターとがピンプラグコード接続されているときに働きます。

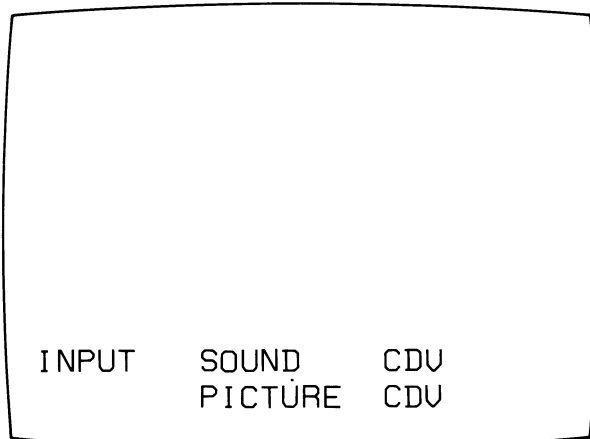
■フルモード

本機のお動作状態をすべて表示します。



■ショートモード

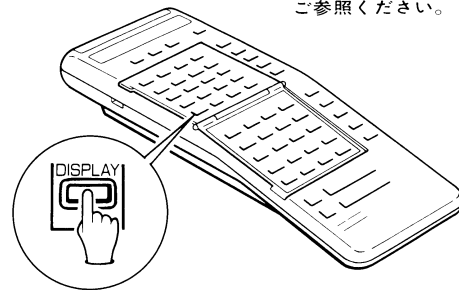
操作したキーに関する情報だけを約2秒間モニターに表示します。



■オフモード

モニターに表示を出さないモードです。

リモコンについては28ページを参照ください。



- ①：現在INPUT SELECTORで選択しているオーディオソースを表示します。
- ②：現在INPUT SELECTORまたはPICTURE SELECTORで選択しているビジュアルソースを表示します。
- ③：現在REC OUT SOUNDセクターで選択しているオーディオソースを表示します。
選択されたオーディオソースは、すべてのオーディオ系OUT端子に出力されます。
- ④：現在REC OUT PICTUREセクターで選択しているビジュアルソースを表示します。
選択されたビジュアルソースは、すべてのビジュアル系OUT端子に出力されます。
- ⑤：ミュートがONのときは-20dBを表示します。
- ⑥：ビデオエンハンサーがREC状態であるかMONITOR状態であるかを表示します。
どちらでもないときは、OFFが表示されます。
- ⑦：サラウンドがONのときは、選択されているサラウンドモードの名称と番号を表示します。
- ⑧：設定されたディレイタイムを表示します。(サラウンドOFF時は表示されません)
- ⑨：リアレベルをバーグラフで表示します。

操作のしかた

■再生のまえに

- 電源を入れる前に、接続が間違いなく行われていることを確認してください。
- リモコンで操作する場合は、対応するキーをご使用ください。(リモコンについての詳細は28ページをご参照ください)

■電源のON/OFF

POWERスイッチを押しますと電源が入り、もう一度押しますと電源が切れます。

- *電源がONになっても数秒間は本機のミュート機能、プロテクション機能の働きにより音はでません。
- *本機のINPUT SELECTORは電子スイッチを使っています。本機の電源をOFFにして、接続されている機器を直接ヘッドホン試聴する場合には、音が歪むことがあります。そのようなときは、本機の電源をONにしてください。
- *スピーカー保護のため、必要な接続機器の電源をONにしたあと、本機のボリュームが絞られていることを確認してから本機の電源をONにしてください。

オーディオソースの再生

- 1 本機および再生するオーディオ機器の電源をONにします。
 - 2 INPUT SELECTORで再生したいオーディオソースを選び、そのインジケータを点灯させます。
 - 3 オーディオ機器の再生を開始します。
 - オーディオ機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
 - 4 メイン(フロント)スピーカーの音量はVOLUMEコントロールで調整します。
 - 5 サラウンド再生時、サラウンド(リア)スピーカーの音量は、REAR LEVELコントロールで調整します。
 - センタースピーカーの音量は、CENTER LEVELコントロールで調整します。
- 必要に応じてTREBLE、MID、BASSの各コントロールで音質を調整します。
 - 低音域をより強調したいときは、BASS EXTENSIONスイッチをONにします。

ビジュアルソースの再生

- 1 本機、ビジュアル機器およびモニターテレビの電源をONにします。

- 2 INPUT SELECTORで、再生するビジュアルソースを選び、そのインジケータを点灯させます。
- 3 ビジュアル機器を操作し、再生します。
 - ビジュアル機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
- 4 メイン(フロント)スピーカーの音量はVOLUMEコントロールで調整します。
- 5 サラウンド再生時、サラウンド(リア)スピーカーの音量は、REAR LEVELコントロールで調整します。
 - センタースピーカーの音量は、CENTER LEVELコントロールで調整します。

- 画質を調整するときは、VIDEO ENHANCERのMONITORキーを押し、DETAIL、SHARPNESS、VIDEO LEVELの各コントロールで調整します。(27ページ)
- 必要に応じてTREBLE、MID、BASSの各コントロールで音質を調整します。
- 低音域をより強調したいときは、BASS EXTENSIONスイッチをONにします。

ビジュアルソースと異なるオーディオソースを選択するときは、先にINPUT SELECTORでオーディオソースを選び、次にPICTURE SELECTORでビジュアルソースを選択します。

テープデッキでの録音のしかた

- 1 本機および各機器の電源をONにします。
- 2 REC OUT SOUNDセクターで録音するプログラムソースを選び、そのインジケータを点灯させます。
- 3 テープデッキを操作して録音レベルを調整したあと、録音一時停止状態(REC PAUSE)にします。
- 4 録音するプログラムソースの再生をスタートし、同時にテープデッキの録音を開始します。
- 5 テープデッキを操作し、録音を開始します。
- 6 録音内容をモニターする場合は、録音をしているプログラムソースをINPUT SELECTORで選択します。

- ビデオデッキをオーディオデッキとして録音に使用する場合は同様の操作を行ってください。
- INPUT SELECTORで他のプログラムソースを選択すると、録音をしながら、他の選択したプログラムソースを再生することができます。
- 録音するソースによっては、2台のテープデッキと2台のビデオデッキの合計4台で同時に録音することができます。
- テープデッキの操作は、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。

テープデッキのダビング

テープデッキを2台使用しますと、テープからテープへダビングをすることができます。

●TAPE 1→TAPE 2

テープデッキ1からテープデッキ2へダビングするときは、REC OUT SOUNDセレクターで"TAPE 1"を選択し、テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。

●TAPE 2→TAPE 1

テープデッキ2からテープデッキ1へダビングするときは、REC OUT SOUNDセレクターで"TAPE 2"を選択し、テープデッキ2を再生状態にし、テープデッキ1で録音します。

録画のしかた

ビデオデッキ同士でのダビングや、その他のビデオ機器のプログラムをビデオデッキで録画をすることができます。

- 1 本機および各機器の電源をONにします。
- 2 REC OUT PICTUREセレクターで録画をするプログラムソースを選び、そのインジケータを点灯させます。
- 3 REC OUT SOUNDセレクターを録画をするプログラムソースに合わせます。
 - 他のソースを選択しますと、録音される音声を変えることができます。
- 4 ビデオデッキを操作して録画一時停止状態にします。
 - 必要に応じてVIDEO ENHANCERのRECキーを押し、DETAIL、SHARPNESS、VIDEO LEVELの各コントロールで画質を調整します。(27ページ)
- 5 録画するプログラムソースの再生をスタートし、同時にビデオデッキの録画を開始します。
 - 映像と音声をモニターする場合は、再生をしているプログラムソースをINPUT SELECTORで選択します。
 - INPUT SELECTORで他のオーディオプログラムソースを選択しますと、録画をしながら、選択したプログラムソースを再生することができます。

ビデオデッキで録画をするときには、オリジナルのタイトルを編集して画面に挿入することができます。詳細は25ページの「タイトルエディットのしかた」をご参照ください。

- 2台のビデオデッキで同時に録画することができます。また音声のみを(オーディオ)テープデッキで録音することができます。

- ビデオデッキの操作は、ビデオデッキの取扱説明書を参照してください。
- 録画をするときは、あらかじめテスト録画をしてください。

ビデオデッキのダビング

ビデオデッキを2台使用しますと、テープからテープへダビングをすることができます。

●VCR 1→VCR 2

ビデオデッキ1からビデオデッキ2へダビングするときは、REC OUT PICTUREセレクターとREC OUT SOUNDセレクターの"VCR 1"を選択し、ビデオデッキ1を再生状態にし、ビデオデッキ2で録画します。

●VCR 2→VCR 1

ビデオデッキ2からビデオデッキ1へダビングするときは、REC OUT PICTUREセレクターとREC OUT SOUNDセレクターの"VCR 2"を選択し、ビデオデッキ2を再生状態にし、ビデオデッキ1で録画します。

INPUT SELECTOR、REC OUTセレクターについて
 本機のINPUT SELECTOR、REC OUTセレクターはSOUND(オーディオ：音声)とPICTURE(ビジュアル：映像)が独立して機能します。
 従って、オーディオソースを再生中にも、映像をモニターしたりダビングをすることや、モニターをしているビジュアルソースの音声を自由に選択することができます。また、映像をビデオデッキでダビングや録画するときにも別のプログラムの音声を自由に選択することができます。

タイマー録音・録画、タイマー再生のしかた

本機はマイコンが電源を切る前の状態を記憶(1時間通電しますと通常で1週間程度)していますので、市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー録音・録画やタイマー再生をすることができます。

- ご使用になるテープデッキ、ビデオデッキ、オーディオタイマーなどの取扱説明書をご参照になり、タイマー録音・録画やタイマー再生のための接続をします。
- 本機の電源がONの状態での録音/録画するソースはREC OUT SOUND/REC OUT PICTUREセレクターで、タイマー再生するソースはINPUT/PICTURE SELECTORで選択します。

サラウンド再生について

■サラウンドについて

本機は、コンサートホールやライブスポット、そして映画館で体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタル・サラウンド・プロセッサを搭載しています。

再生するソースにより、8種類のサラウンドモードを使い分けてお楽しみください。

また本機は、従来の方式に比べ、セパレーションを2倍に拡大した新開発のセンターチャンネル出力回路を装備。センターの音が、中央に明瞭に定位しますので、ビデオソフトなどビジュアルソース再生時に、威力を発揮します。

■スピーカーレイアウトについて

サラウンド再生には、従来の2チャンネルステレオで使用する2台のスピーカー(以下メインスピーカーと呼びます)とリスナーの後方に設置するサラウンドスピーカーに加えて、ビジュアルソース再生時に効果の大きいセンタースピーカーの5台のスピーカーを設置するのが理想です。

しかしリスニングルームの状況によりセンタースピーカーを設置するのが困難な場合は、センタースピーカーを使用しない4台のスピーカー構成でも、本機のサラウンド効果を充分にお楽しみいただけます。

- メイン、センター、サラウンドの各スピーカーは音質の似たものをお使いください。
- センタースピーカーをテレビの近くに設置して使用しますとテレビの画面が乱れる場合があります。このようなときはテレビとスピーカーの距離を離すか、防磁タイプのスピーカーに取り替えてください。

■スピーカーの設置場所について

メインスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。またモニターテレビを設置しているときは、左右のスピーカーとモニターテレビの距離を等しく設置してください。

センタースピーカー

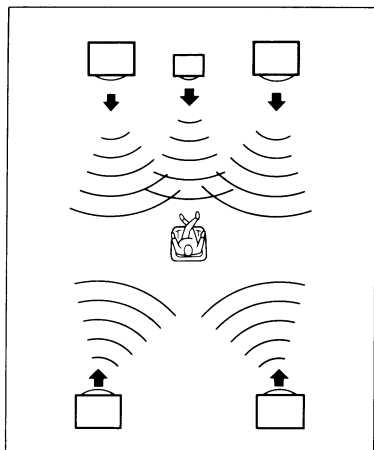
モニターテレビを設置している場合は、スピーカーがテレビ画面に色ズレなどの悪影響をおよぼさない程度に近いところ(センタースピーカーが1台の場合はテレビの上または下、あるいはテレビの後方。また、2台の場合はテレビの左右)に設置してください。

スムーズな音の移動感と定位感を得るために、メインスピーカーの中・高域ユニットの高さにセンタースピーカーを合わせることをお勧めします。

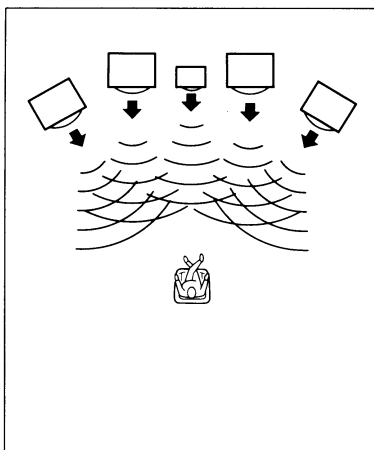
サラウンドスピーカー

原則的にはリスナーの後方の壁にリスナーに向けて設置します。高さは床から1.8m位が適当です。しかし、サラウンドスピーカーの配置は、部屋の大きさや残響特性などにより、いろいろなパターンが考えられます。

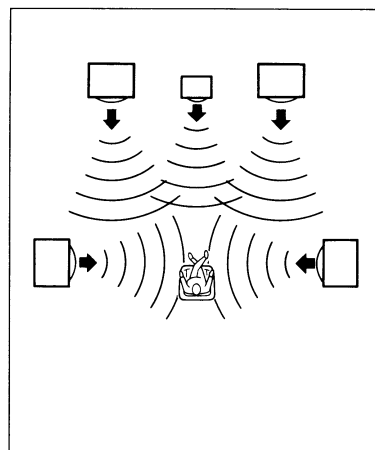
ここに示した配置例は、サラウンド空間をより効果的に楽しみいただくための代表的な例です。それ以外にもいろいろな配置があります。お好みに合わせてセットしてお楽しみください。



標準的な置き方



前方に4つのスピーカーを配置する場合
左右の壁が板やコンクリートなどの場合は、図とは逆に壁側に向けてと良い結果が得られる場合があります。



スピーカーを左右に配置する場合
サラウンドスピーカーは少し高い所から下向きに置くくと良い結果が得られる場合があります。

■サラウンド再生の準備

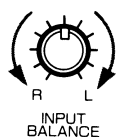
メインの音とサラウンドの音、そしてセンターの音のバランスがとれていないと良いサラウンド効果は得られません。下記の手順に従って各スピーカーの音量バランスを調整してください。

- ①本機およびご使用になる機器すべての電源を“ON”にします。
- ②再生するプログラムソースを本機に入力します。

入力バランスの調整

効果的なサラウンド再生を行うために、L、Rの入力バランス調整を行います。

- ③左右のサラウンドスピーカーから出る、センターの音（会話などの部分）が最小になるように、リアパネルのINPUT BALANCEコントロールを回して調整します。
このときサラウンドモードは①**NATURAL SURROUND**または④**DOLBY SURROUND**にしてください。



各スピーカーの音量バランスの調整

メイン、センター、サラウンド各スピーカーの音量バランスを調整します。

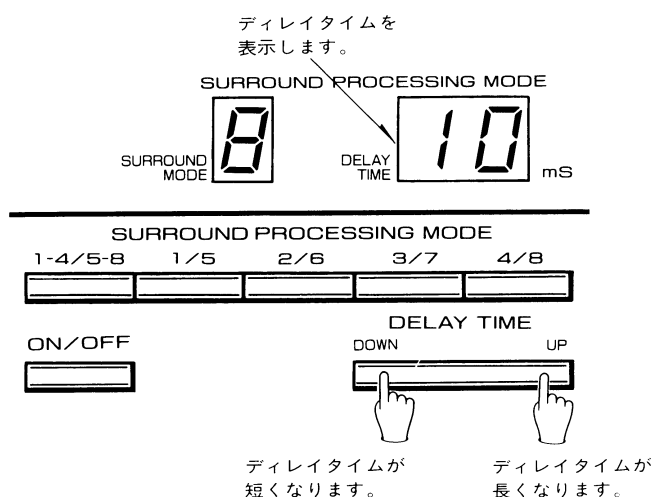
- ④メインスピーカーの音量を調整します。
 - サラウンドスピーカーの音量をREAR LEVELコントロールで絞ります。
 - センタースピーカーを設置している場合は、センタースピーカーの音量をCENTER LEVELコントロールで絞ります。
- ⑤サラウンドモードや、お好みにより、センターおよびサラウンドスピーカーの音量を調整します。
 - センターまたはサラウンドのスピーカーを外部のアンプで駆動する接続をしている場合（16ページ参照）は、本機のVOLUMEコントロールと外部アンプのボリュームを操作して、各スピーカーの音量バランスを調整してください。

■サラウンド再生のしかた

- 1 接続した各機器の電源を入れます。
- 2 SURROUND PROCESSING MODEのON/OFFスイッチを押して“ON”にします。
SURROUND PROCESSING MODEインジケータがサラウンドモードおよびディレイタイムを表示します。
- 3 SURROUND PROCESSING MODEキーで再生するサラウンドモードを選択します。
 - モノラルソースをサラウンド再生する場合は、⑤～⑧のサラウンドモードを選択してください。①～④のサラウンドモードではサラウンドスピーカーから音は出なくなります。
- 4 接続した機器を操作して、ソース信号を入力します。
- 5 VOLUMEコントロールで音量を調整します。
- 6 必要に応じてDELAY TIMEキーを使ってディレイタイムを調整してください。

■DELAY TIMEについて

各サラウンドモードには、ディレイタイムがプリセットされていますが、再生するソースやリスニングルームの状況により、ディレイタイムを変えることができます。ディレイタイムを長めに設定しますと大きめの音場空間が、短かめに設定しますと、小さめの音場空間が創造されます。



■通常のスtereo再生

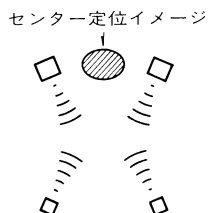
SURROUND MODEのON/OFFスイッチをOFFにしますと、通常のスtereo再生をすることができます。

- 通常のスtereo再生時は、サラウンドスピーカーから音はでません。

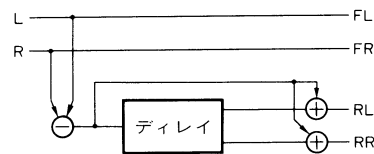
サラウンド再生の種類と特長

本機はSURROUND PROCESSING MODEキーにより8種類のサラウンドモードを選択してお楽しみいただけます。サラウンドモードを選択するときは、1-4/5-8キーを押し、1~4あるいは5~8のどちらかを選択します。次に1/5~4/8キーで希望のサラウンドモードを選択します。

1 NATURAL SURROUND 1

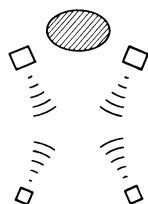


メインスピーカーは入力ソース信号をそのまま出力し、残響音はサラウンドスピーカーだけに送られます。センターの音は、図のように左右のメインスピーカーの中央前に定位し、安定感があります。このポジションは、ソースの持つ残響を忠実に再生することを目的にしていますので、ソース自身に残響音を多く含んでいるソースの再生に適していますが、どのようなミュージックソースにも、ビジュアルソースの再生にも適した“基本のサラウンド”です。

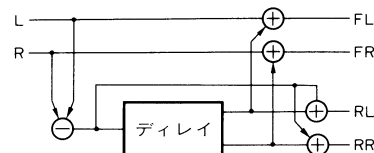


ディレイタイム調整範囲=10~30mS
(2mSステップ)

2 NATURAL SURROUND 2

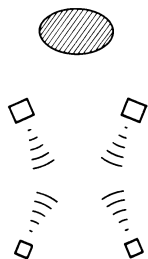


メインスピーカーにエフェクト音が多少加えられています。センターの音の定位位置は、図のように中央のやや奥まったところで、やや拡がり感が生まれます。NATURAL SURROUND 1と比較しますと、拡がり感が増しますので、残響音の少ないソースの再生に適しているポジションです。このポジションで再生しますと、開放感が創造されますので、BGM的なサラウンド再生に適しています。

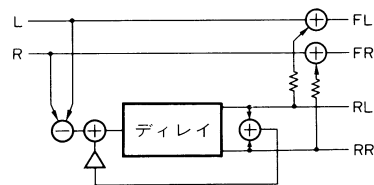


ディレイタイム調整範囲=10~30mS
(2mSステップ)

3 HALL SURROUND

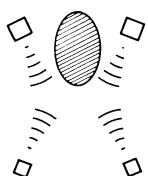


センターの音の定位位置は、NATURAL SURROUND 2よりさらに深まり、大きくなります。ホールの空間を強調するポジションです。「大きなホールのオペラ」や「野外コンサート」などの雰囲気創造することができます。聴取位置は、ホールの中程の席というイメージです。

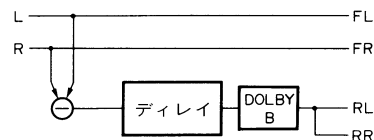


ディレイタイム調整範囲=10~30mS
(2mSステップ)

4 DOLBY SURROUND



DOLBY SURROUND マークの付いたビジュアルソフトを再生するときは、このポジションにします。これらのビジュアルソフトは、ドルビーステレオならではの迫力と音響効果を生み出すために、ドルビー独自のシステムでエンコード録音されています。本機はドルビーサラウンドデコーダーを内蔵していますので、劇場で体験するのと同じような臨場感と音響効果をもって再生することができます。

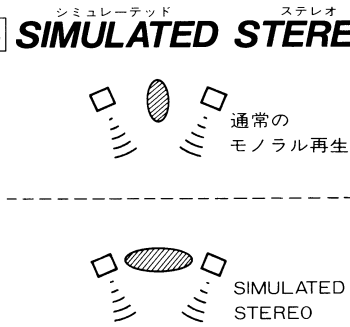


ディレイタイム調整範囲
= 15、16、17、18~30mS (2mSステップ)

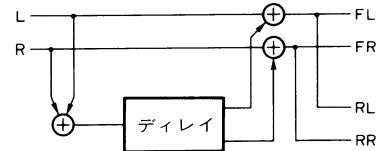
※ **DOLBY SURROUND**

「ドルビー」およびダブルD記号は、ドルビー研究所の登録商標です。本機はドルビー研究所のライセンスに基づき製造された製品です。

5 SIMULATED STEREO

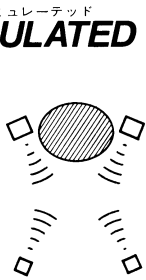


モノラルソースの再生に適したポジションです。通常モノラル再生と比較しますと、音像イメージは前方に出て広がります。またソースの持つエネルギー感も増強されます。このポジションは、せりふ部分などが迫力を増しますので、「モノラル映画」や「ニュース」などのソースの再生に適しています。

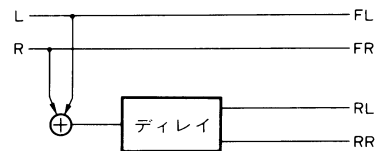


ディレイタイム調整範囲=10~30mS
(2mSステップ)

6 SIMULATED SURROUND

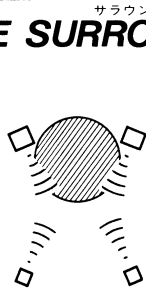


モノラルソースの再生に適したポジションです。SIMULATED STEREOと比較しますと、音像イメージや空間が、より広がります。「モノラル映画」や「モノラル音楽」ソースの再生に適しています。また、「ステレオ映画」の再生時にもエネルギー感が増強されますので、お試しください。

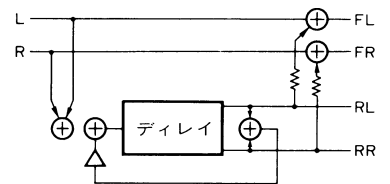


ディレイタイム調整範囲=0~30mS
(2mSステップ)

7 LIVE SURROUND

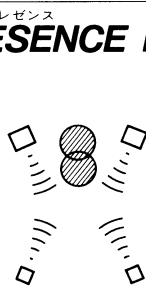


モノラルソースの再生に適したポジションです。残響音をフィードバックしますので、残響に後を引くような余韻が付加されます。音場が晴れやかな感じになり、リスニングルーム全体に残響感が充満します。スタジオ録音のロックやフュージョンなど、比較的狭いリスニングルームに響き渡るようなソースの再生に適しています。

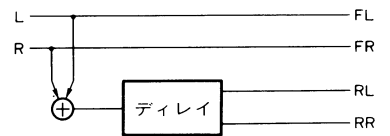


ディレイタイム調整範囲=10~30mS
(2mSステップ)

8 PRESENCE DELAY

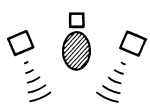


モノラルソースの再生に適したポジションです。リアの残響が、他のサラウンドポジションに比較してやや主体的に再生されます。このポジションでは、もともと残響成分の少ないソースを、DELAY TIMEを調整して、お楽しみください。ただし、残響成分の多いソースを再生しますと、音場が濁った感じになりますので、ご注意ください。



ディレイタイム調整範囲=0~30mS
(2mSステップ)

■センターチャンネルについて



ヴォーカルやせりふをセンターに集中させ、サラウンドの臨場感とセンター定位のエネルギー感、安定感などを得るために、大変効果があります。通常、Lチャンネル+Rチャンネルを合成して創造されるセンターチャンネルでは、音量を大きくしようと

左右のセパレーションが劣化してしまいました。この現象を防ぐため、本機は新設計のセンターチャンネル出力回路を搭載し、セパレーションの悪化をおさえています。

タイトルエディットのしかた



タイトルエディット機能を使いますと、ビジュアルソースの録画やダビングの際に、オリジナリティ豊かなタイトルを追加することができます。

- タイトルエディットは事前に試し録画されることをお勧めします。
- タイトルエディットをするときは、SURROUND PROCESSING MODEキーを使用します。

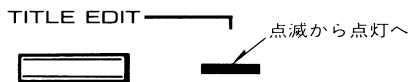
(例) YAMAHA
AVX
100 とタイトルを入れるには

■インプットのしかた

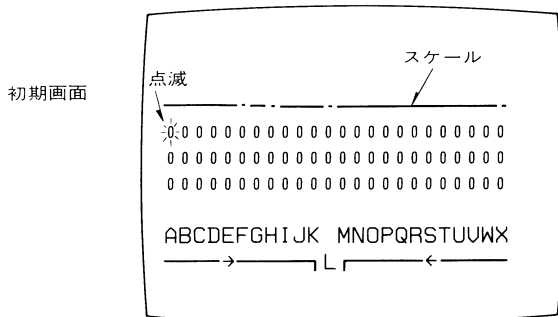
1 TITLE EDITキーを押します。

インジケータが点滅から点灯に変わるまでキーを押し続けます。

モニターは下の初期画面を表示、インプットモードになります。



- メモリーされていたキャラクターが表示された場合は、ON/OFFキーを押し続け、初期画面にします。
- REC OUT SOUNDセレクト、REC OUT PICTU REセレクトで選択したプログラムが出ます。



2 3/7キーまたは4/8キーでキャラクターを入れる位置を決めます。

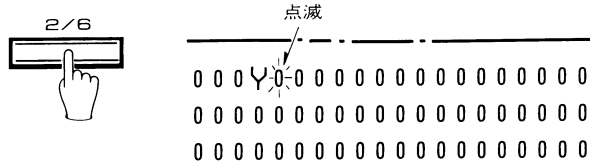
0の点滅しているところにキャラクターが入ります。



3 DOWNまたはUPキーでキャラクターを選びます。キーは押し続けると、連続的にキャラクターが移動します。



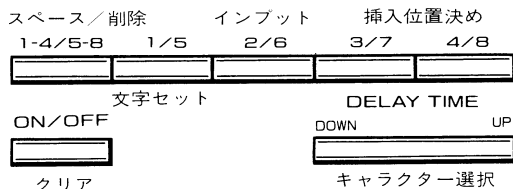
4 キャラクターが決まりましたら2/6キーを押します。"2"で決めた位置にキャラクターが入ります。



5 "2"から"4"の操作を繰り返し、必要なキャラクターをすべてインプットします。

- キャラクター間にスペースをあける場合は、1-4/5-8キーを使います。
- あとでキャラクターを拡大する場合は、表示上のスケールを目安にしてください。(2、3、4倍)
- キャラクターを変更する場合は、3/7キーまたは4/8キーで変更するキャラクターを点滅させ、再度インプットしなおしてください。また1-4/5-8キーを押しますと、キャラクターはクリアされます。
- ON/OFFキーを押し続けると、画面はクリアされ初期画面に戻ります。

■インプット時のキー機能



- 本機は下記の111キャラクターを内蔵しています。

ABCDEFGHIJKL MNOP
 QRSTUVWXYZabcdef
 ghi jklmnopqrstuv
 wxyz012345678901
 23456789äüö!#%?&
 +-*/=<>[]:','.,.♪♥
 →←↑↓↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑

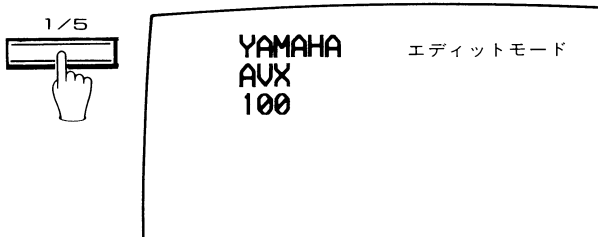
タイトルエディットのしかた

■エディットのしかた

6 1/5キーを押します。

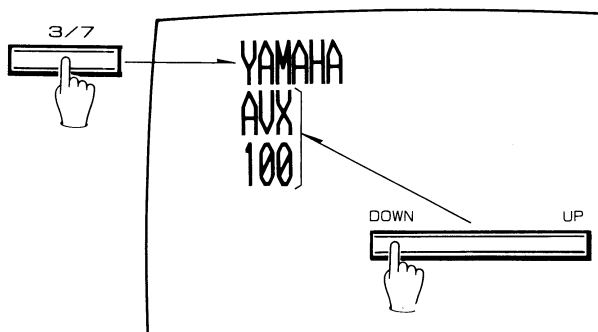
画面はインプットされたキャラクターのみを表示、インプットモードは解除され、エディットモードになります。

- タイトルがご希望のスタイルになるように各キーを操作してください。
- タイトルを変更したい場合は、TITLE EDITキーを2回押します。インプットモードに戻りますので、インプットをやり直してください。



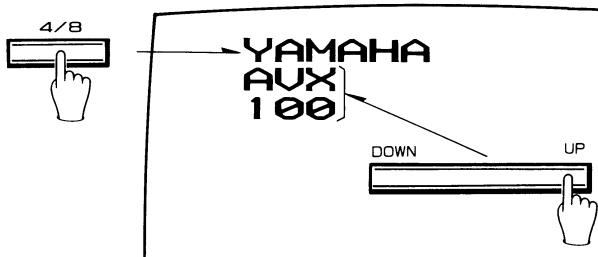
7 3/7キーを押すごとに、1行目のキャラクターを縦方向に4倍まで拡大することができます。(2倍→3倍→4倍)

8 DOWNキーを押すごとに、2行目、3行目のキャラクターを同時に、縦方向に4倍まで拡大することができます。



9 4/8キーを押すごとに、1行目のキャラクターを横方向に4倍まで拡大することができます。

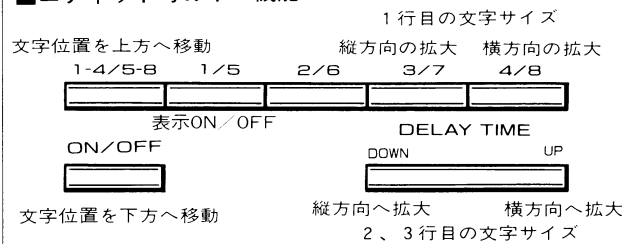
10 UPキーを押すごとに、2行目、3行目のキャラクターを同時に、横方向に4倍まで拡大することができます。



11 ON/OFFキーを押しますと、キャラクター全体を画面の下に移動することができます。

12 1-4/5-8キーを押しますと、キャラクター全体を画面の上に移動することができます。

■エディット時のキー機能



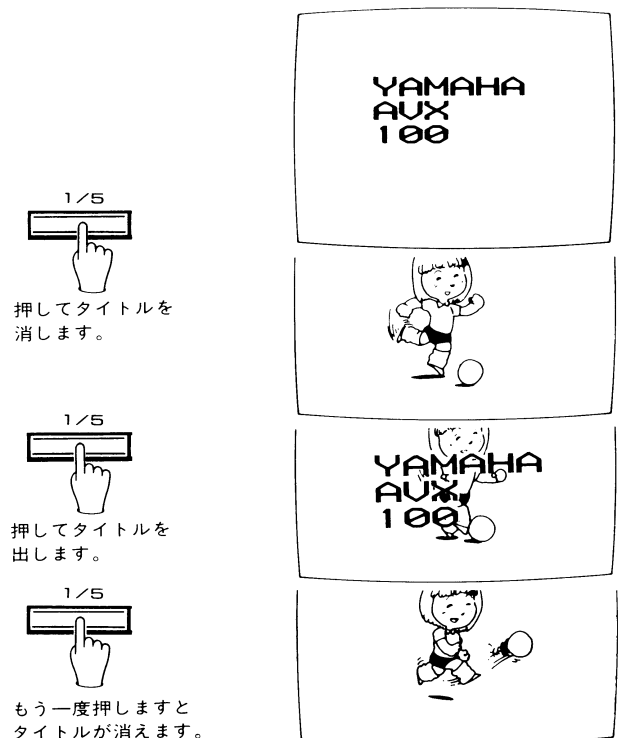
■タイトル録画のしかた

13 "録画のしかた"(20ページ)に従って録画あるいはダビングの準備をします。

14 1/5キーを押し、画面のタイトル表示を消します。

15 ビデオデッキを操作し、タイトルを録画したい場面になりましたら、1/5キーを押し、タイトルを画面に表示させます。

- 1/5キーで画面に表示させている間だけタイトルが録画されます。



- タイトルエディット中は、MONITOR OUTとOUT端子には同じ信号が出力されます。従って、現在モニターに表示されているものと同じ画面が録画されることになります。

- 一度インプットやエディットしたキャラクターは電源を切ってもメモリーされています。

TITLE EDITキーを押しますとインプット状態が表示され、1/5キーを押しますとエディット後の状態が表示されます。

ビデオエンハンサーについて

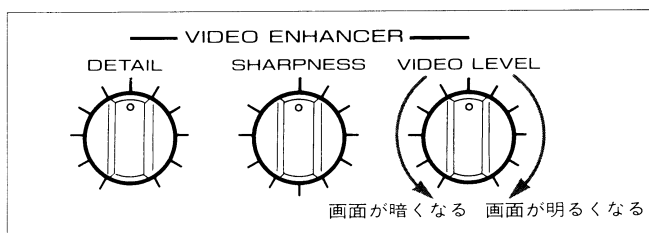
■ビデオエンハンス効果について

ビジュアルソースは、VIDEO ENHANCERの各コントロールを調整しますと、劣化した映像を改善し、より鮮明な画像で再生や録画をすることができます。

VIDEO LEVEL

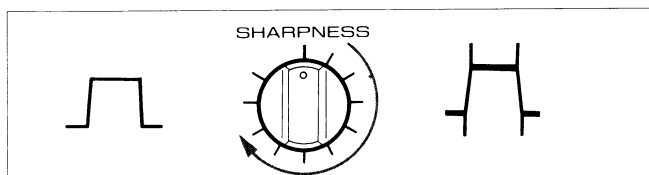
画面の明るさを調整することができます。

画像が全体に暗いと感じられるときは、つまみを右に回します。逆に画面が明るすぎる場合はつまみを左に回します。



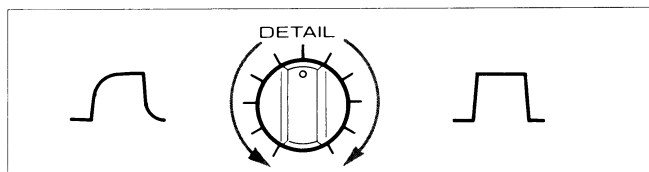
SHARPNESS

つまみを右に回しますと、画像の輪郭が修復あるいは強調されて、くっきりとした画面になります。



DETAIL

つまみを中央から右に回しますと、画像の細部が強調され、中央から左に回しますと、画像がソフトになります。



REC キー

録画時にVIDEO ENHANCERを効かせるときに押します。

MONITOR キー

再生画面にVIDEO ENHANCERを効かせるときに押します。

- ビデオエンハンサーは、強く効かせると、テレビの種類によっては垂直同期が乱れることがありますので、適正な画面になるように調整してください。
- SHARPNESSの調整は平面的な画面で行うよりも、衣服の模様や髪の毛などで行ったほうが、良い結果が得られます。

■ビデオエンハンサーの使い方

●再生時のエンハンス

- 1 19ページの“ビジュアルソースの再生”を参照して、ビジュアルソースを再生します。
 - 2 VIDEO ENHANCER MONITORキーを押します。
 - 3 VIDEO ENHANCERのVIDEO LEVEL、SHARPNESS、DETAILの各コントロールで画像を調整します。
 - 4 VIDEO ENHANCER MONITORキーを押し、調整前の画像と比較します。
必要に応じて調整をやり直します。
- S-VIDEO端子に接続したビデオデッキはVIDEO ENHANCERの効果を加味した再生はできません。

●録音時のエンハンス

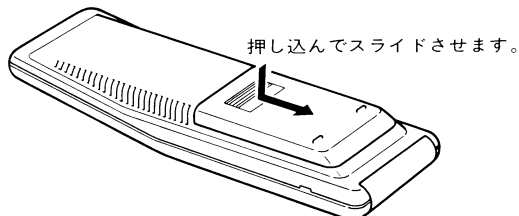
- 1 20ページの“録画のしかた”を参照して、録画あるいはダビングの準備をします。
ビデオデッキの取扱説明書を参照して、録音側のビデオデッキを録画一時停止状態にします。
 - 2 VIDEO ENHANCER MONITORキーを押します。
 - 3 再生側の機器を操作し、ビジュアルソースを再生します。
 - 4 VIDEO ENHANCERのVIDEO LEVEL、SHARPNESS、DETAILの各コントロールで画像を調整します。
 - 5 VIDEO ENHANCER MONITORキーを押し、調整前の画像と比較します。
必要に応じて調整をやり直します。
 - 6 VIDEO ENHANCER RECキーを押してから、録画側のビデオデッキを操作し、録画を開始します。
- 録画あるいはダビングをするソース自体にノイズ、ゴーストなどがある場合はエンハンサーを使用しますと、さらに強調される結果となります。
 - ダビングをするときは、SHARPNESSの調整は最適と思われる位置よりやや低めにセットすることをお勧めします。
SHARPNESSを回し過ぎますと、ダビングされた画像の色がにごったり、画像の周りに黒い線が走ったりすることがあります。
 - S-VIDEO端子に接続したビデオデッキはVIDEO ENHANCERの効果を加味した録画はできません。

あなたが、テレビ放送やレコード、録画物などから録画録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

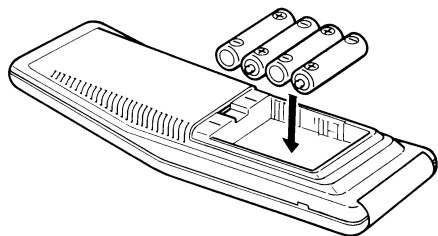
リモコンについて

■電池の入れかた

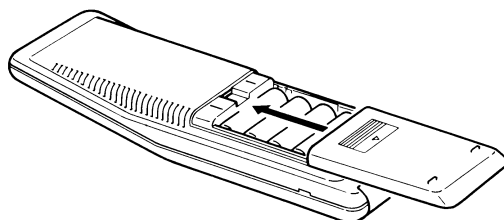
1 リモコンの裏ふたを開けます。



2 単3乾電池4本をケース内の指示に従って⊕、⊖を正しく入れます。



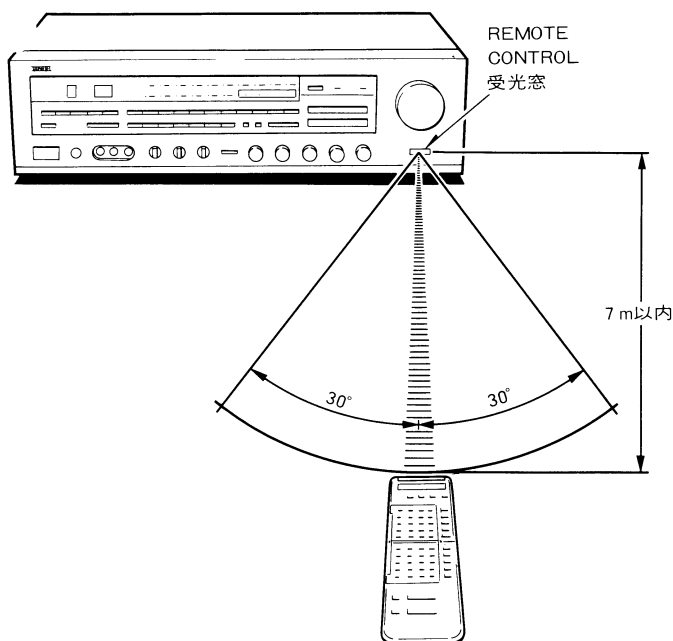
3 カチッと音がするまで裏ふたを閉めます。



■リモコンのご使用にあたって

リモコンは、直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて、正しく操作してください。受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。また受光部に強い光が当たると、誤動作することがありますので注意してください。

リモコンの使用範囲は



■ご注意

- 乾電池の電圧が下がりますと、ERROR/BATTインジケータが点灯します。すぐに乾電池を交換してください。
- 乾電池の交換を行っている間にメモリーが失われることはありません。しかし、乾電池の電圧が下がったままで長時間放置しますと、メモリーがすべて失われ、メモリーをしないおさなければならなくなります。ご注意ください。

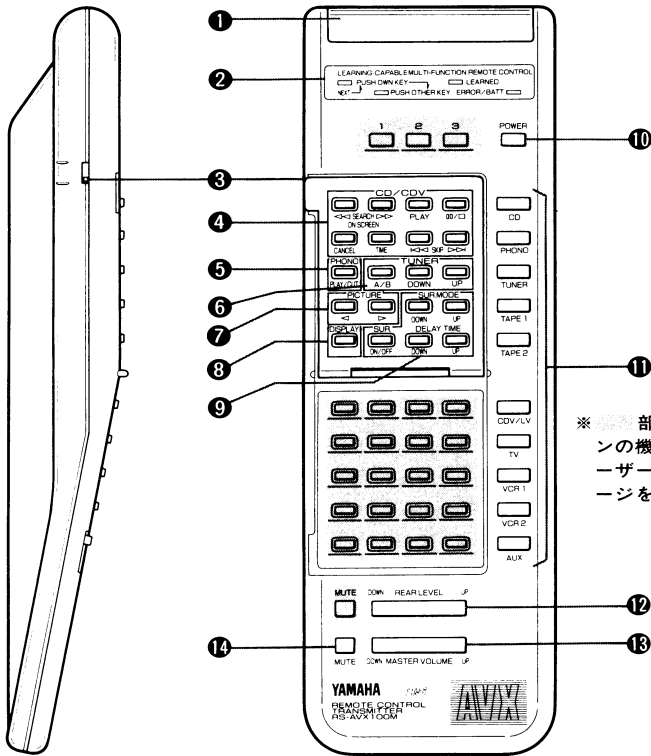
■乾電池についてのご注意

- プラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は、早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 電池の⊕と⊖を金属片などで直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れたりしないでください。万一液もれが起ったときは、電池ケースについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

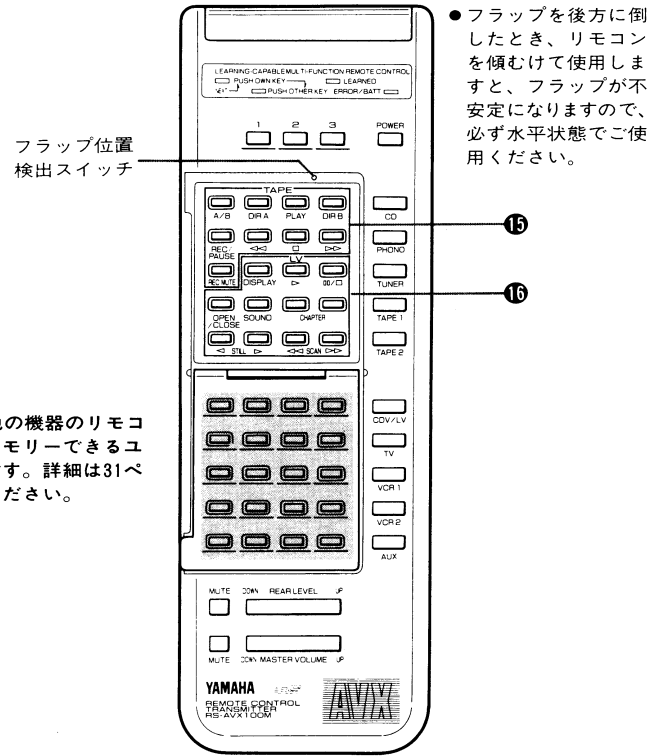
リモコンについて

リモコン各部の名称とはたらき

■フラップを前方に倒したところ



■フラップを後方に倒したところ



※ 部分は他の機器のリモコンの機能をメモリーできるユーザーキーです。詳細は31ページを参照ください。

●フラップを後方に倒したとき、リモコンを傾むけて使用しますと、フラップが不安定になりますので、必ず水平状態でご使用ください。

①送信窓

リモコンのコントロール信号(赤外線)を送信する窓です。

②インジケータ

NEXT/PUSH OWN KEY

LEARNモードのときに点灯します。

PUSH OTHER KEY

LEARNモードのとき、本機のキーを押しますと15秒間点滅します。点滅中に他のリモコンの赤外線を受信しますと点灯し、メモリーが完了しますと消灯します。

LEARNED

LEARNモードのときはメモリーが正しく行われると点灯します。

NORMモードのときはメモリーを持つキーが押されたときに点灯します。

ERROR/BATT

2つ以上のキーを同時に押しますと点灯します。

LEARNモードのときは、メモリーが正しく行われないうちに点灯します。

NORMモードのときは、メモリーを持たないキーを押したとき点灯します。

また、乾電池の電圧が下がったときにも点灯します。すぐに新しい乾電池と交換してください。

③ノーマル/LEARNスイッチ

LEARN (メモリー) モードとNORM (ノーマル) モードを切り換えます。

●通常はNORMモードにしておきます。

■ファクトリー・セットキー

以下のキーは本体と、(本体に接続した) ヤマハの MARK 付きの各機器をコントロールするキーです。

■フラップを前方に倒したとき (④~⑨)

④CD/CDVコントロールキー

MARK 付きのCDプレーヤーおよびCDVプレーヤーをダイレクトにコントロールします。

(ヤマハCDV-1000など、CD/CDV/LVフルコンバチブルプレーヤーはフラップを後方に倒し、LVキーで操作してください)

SEARCH CDプレーヤーおよびCDVプレーヤー本体のSEARCHキーと同じ働きをします。選曲再生をするキーです。

PLAY CDプレーヤーおよびCDVプレーヤー本体のPLAYキーと同じ働きをします。再生をスタートさせるキーです。

□ / □ CDプレーヤーおよびCDVプレーヤー本体のPAUSE/STOPキーと同じ働きをします。一度押すと再生を一時停止し、もう一度押すと停止します。


^{オン} ^{スクリーン} ^{キャンセル}
ON SCREEN CANCEL CDプレーヤーおよびCDVプレーヤーの操作状況をモニターの画面に出したくないときに押します。

^{オン} ^{スクリーン} ^{タイム}
ON SCREEN TIME CDVプレーヤー本体のTIMEキーと同じ働きをします。タイムサーチやインデックスサーチをするキーです。


^{スキップ}
SKIP CDプレーヤーおよびCDVプレーヤー本体のSKIPキーと同じ働きをします。前後の曲の頭出しをするキーです。

- それぞれのキーの機能の詳細は、CDプレーヤーおよびCDVプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

⑤ ^{フオン} ^{プレイ} ^{カット} PHONOコントロールキー PLAY/CUT

 マーク付きのレコードプレーヤーの演奏を開始、または終了することができます。

⑥ ^{チューナー} TUNERコントロールキー

 マーク付きのチューナーにプリセットされている放送局を選局するキーです。

^{アップ}
UP チューナーにプリセットされている放送局を選局するときに押します。押すたびにプリセットの番号が1つずつ増えます。(例、P7→P8) また、P8(P16)のときに押すとP1(P9)に変わります。

^{ダウン}
DOWN チューナーにプリセットされている放送局を選局するときに押します。押すたびにプリセットの番号が1つずつ減ります。(例、P8→P7) また、P1(P9)のときに押すとP8(P16)に換わります。

^{エー} ^{ビー}
A/B チューナーの“P1-P8/P9-P16キー…”と同じはたらきをします。このキーを押すたびに、P1-P8とP9-P16…が切り換わります。

⑦ ^{ピクチャ} PICTUREキー

ビジュアルソースを選択するキーです。オーディオソースとは独立していますので、単独でビジュアルソースを選択することができます。

⑧ ^{ディスプレイ} DISPLAYキー

スーパーインポーズをするときに押します。

キーを押すごとにインポーズモードがフル→ショート→オフ→フル…に切り換わります。

フル 操作状況をすべてモニターに表示します。

ショート 操作をしたキーの情報だけを約2秒間、モニターに表示します。

オフ モニター表示はされません。

⑨ ^{サラウンド} ^{モード} SUR. MODEキー ^{ダウン} ^{アップ} DOWN/UP

サラウンドモードの番号を選択するキーです。

^{サラウンド} ^{オン} ^{オフ}
SUR. ON/OFF 本体のSURROUND MODE ON/OFFキーと同じ働きをします。

^{ディレイ} ^{タイム}
DELAY TIME 本体のDELAY TIMEキーと同じ働きをします。

⑩ ^{パワー} POWERキー

本体の電源をON/OFFします。

⑪ インプットセレクター

入力ソースを選択するキーです。再生したいソースのキーを押しますと、ダイレクトに選択することができます。

- ビジュアルソース (CDV/LV、TV、VCR 1、VCR 2、AUX) は、音声と映像を同時に選択することができます。オーディオソース (CD、PHONO、TUNER、TAPE 1、TAPE 2) は、映像はそのままに、音声のみを選択します。

⑫ ^{リア} ^{レベル} REAR LEVELキー

本体のREAR LEVELキーと同じ働きをします。

キーのUP側を押しますと、音量が上がり、DOWN側を押しますと音量が下がります。

⑬ ^{マスター} ^{ボリューム} MASTER VOLUME キー

本体のVOLUMEと同じ働きをします。


UP側を押しますと音量が上がり、DOWN側を押しますと音量が下がります。

⑭ ^{ミュート} MUTEキー

キーを押しますと、全体の音量を-20dB(1/10)に下げることができます。

■フラップを後方に倒したとき(⑮～⑯)

⑮ ^{テープ} TAPEコントロールキー

 マーク付きのテープデッキをコントロールします。
A/B ダブルカセットデッキのA/Bどちらのデッキを操作するかを選択するキーです。

^{ディレクション}
DIR A ダブルカセットデッキのデッキAの、テープ走行方向を選択するキーです。

^{プレイ}
PLAY テープ走行をスタートさせるキーです。

^{ディレクション}
DIR B ダブルカセットデッキのデッキBの、テープ走行方向を選択するキーです。

^{レック} ^{ポーズ}
REC/PAUSE 録音スタンバイ状態にするときに押します。録音を開始するときはPLAYキーを押します。

◀◀ テープ走行を◀◀方向に早送りします。

□ テープ走行をストップします。

▶▶ テープ走行を▶▶方向に早送りします。

^{レック} ^{ミュート}
REC MUTE 録音中に無録音部分を作るときに押します。

- それぞれのキーの機能の詳細は、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。

⑯ LVコントロール

ヤマハのCDV-1000やCD/CDV/LVフルコンパチブルプレーヤーをコントロールします。

リモコンについて

ディスプレイ
DISPLAY LVプレーヤー本体の表示切換キーと同じ働きをします。

CAV/標準ディスクを再生中にこのキーを押しますと、画面にチャプターナンバーとフレームナンバーが表示されます。

CLV/長時間ディスクを再生中にはチャプターナンバーとタイムナンバーが表示されます。

再生をスタートさせるキーです。

一度押すと再生は一時停止し、もう一度押すと再生がストップします。

オープン/クローズ
DISK TRAY ディスクトレイを開閉するキーです。

オープン/クローズ
SOUND LVプレーヤー本体の音声切換キーと同じ働きをします。

音声をステレオ信号、L、R両チャンネルともL信号、あるいは両チャンネルともR信号に設定するキーです。

チャプター
CHAPTER LVプレーヤー本体のチャプターキーと同じ働きをします。

チャプターの頭出しをするときに押します。

スティル
STILL LVプレーヤー本体の静止画キーと同じ働きをします。

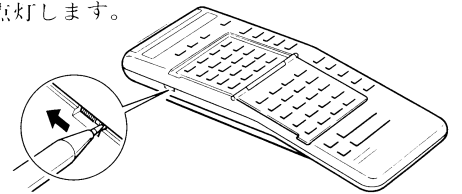
CAV/標準ディスクを静止画/コマ送り再生をするときに押します。

スキャン
SCAN LVプレーヤー本体のスキャンキーと同じ働きをします。

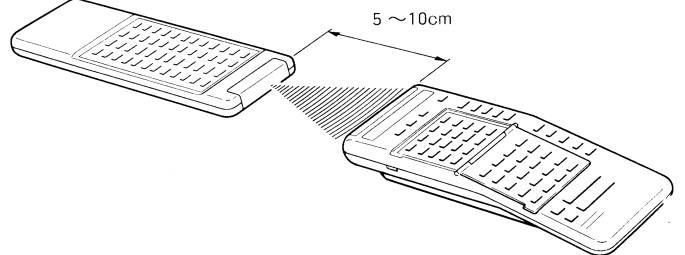
再生を早送りするときに押します。

- それぞれのキーの機能の詳細は、LVプレーヤーの取扱説明書をご参照ください。

NEXT/PUSH OWN KEY
インジケーターが点灯します。



2 本機の送信窓と、メモリーしたい相手のリモコンの送信窓を、5～10cmの間隔で向かい合わせます。



3 ユーザーキーの中のメモリーしたいキーを押します。PUSH OTHER KEYインジケーターが点滅します。(点滅は15秒間継続します)

4 相手のリモコンのメモリーさせたいキーを押します。PUSH OTHER KEYインジケーターが点滅から点灯に変わり、消灯するまで、キーを押し続けます。

5 メモリーが完了しますと、LEARNEDインジケーターが約2秒間点灯します。

- ERROR/BATTインジケーターが点灯した場合には、メモリーをなおしてください。

- メモリーの完了したキーには、キー機能をあらわす付属のシールを張ってください。

6 2～5の操作を繰り返し、必要なメモリーをします。

7 メモリーがすべて完了しましたら、NORM/LEARNスイッチをNORMの位置に戻します。

ご注意

メモリーできないときや、メモリーしても機器を操作できないときは下記の事項をチェックしてください。

- 相手のリモコンの電池が弱っていませんか？

この場合、相手のリモコンで機器の操作ができていても、RS-AVX100Mのメモリーした信号が不完全です。相手のリモコンの電池を交換し再度メモリーしてください。

- 相手のリモコンとの距離が近すぎるか、遠すぎませんか？

- 直射日光や強い光の当たっているところでメモリーしませんでしたか？

RS-AVX100Mが他のノイズも同時にメモリーした場合は、操作できないことがあります。

RS-AVX100Mは相手のリモコン信号が長すぎるときは、自動的にメモリーエリアを2倍に拡大して2回目の入力を待ちます。このときPUSH OTHER KEYのインジケーターが早い点滅に変わります。もう一度メモリー操作をしてください。

- リモコンによっては、RS-AVX100Mのメモリー機能が使えない機種があります。

RS-AVX100Mのメモリー機能について

で示したキーは、他の機器のリモコンの機能をメモリーすることのできるユーザーキーです。

フラップを動かすことにより、1つのキーに2つの機能を持たせることができます。従ってフラップを後方に倒した状態で20機能、フラップを前方に倒した状態で20機能、合わせて40機能をメモリーさせることができます。

またPOWER 1、2、3のキーには、それぞれに他の機器の電源スイッチの機能を、そして、他の機器のミュート機能をMUTEキーにメモリーすることができます。

本RS-AVX100Mのメモリー機能を活用しますと、メモリーしたキーの機能を持った多機能リモコンとして、本機を始め、システムをコントロールすることができます。

- ファクトリーセットキーの機能の変更はできません。

■メモリーのしかた

1 NORM/LEARNスイッチをボールペンの先などでLEARNの位置にします。

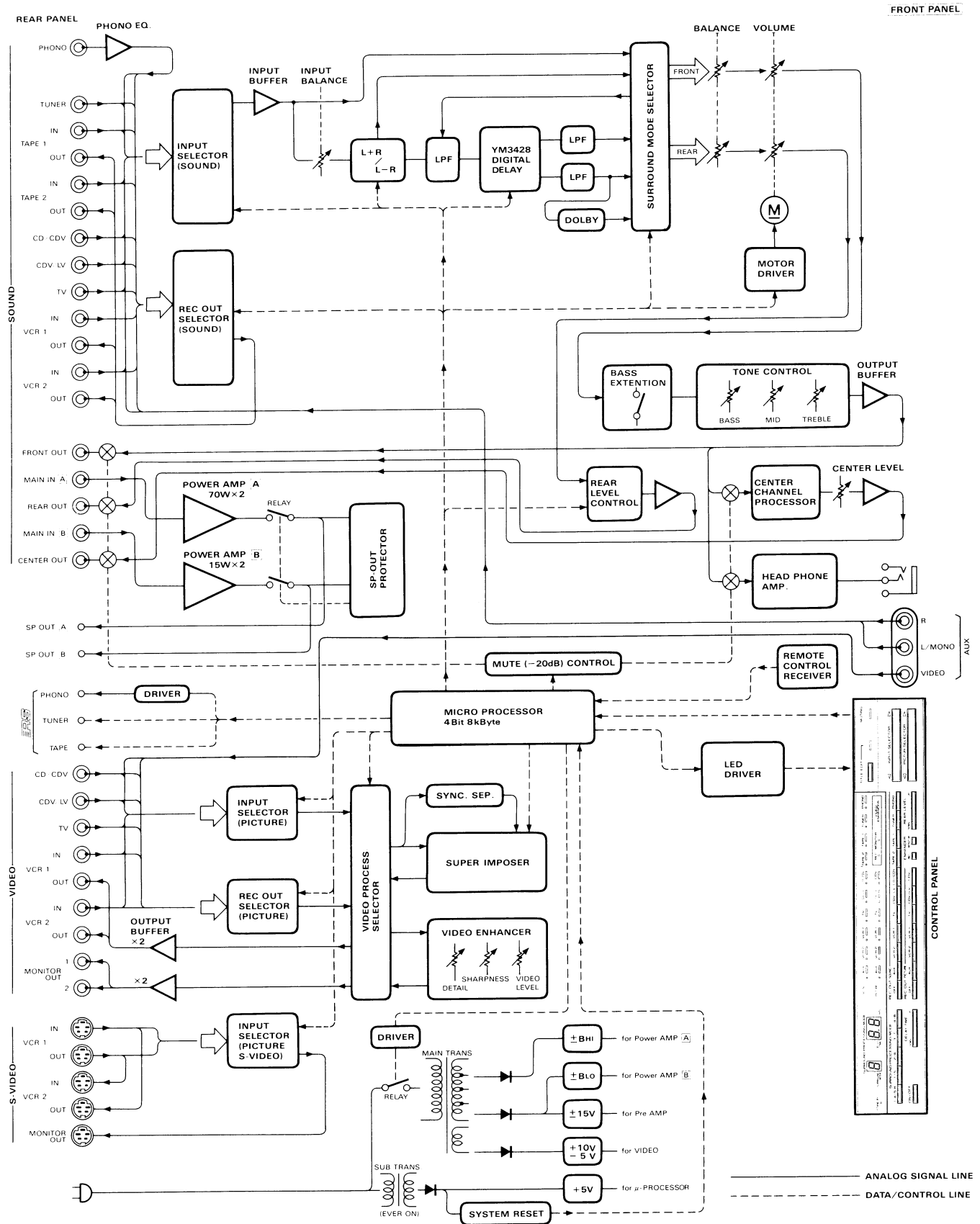
故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
音が出ない	インプットセレクターが、再生したいプログラムソースにセットされていない	再生したいプログラムソースのインジケータを点灯させてください。
	ボリュームが絞られている	VOLUMEコントロールまたはリモコンのVOLUMEキーで、音量を上げてください
	接続が不完全	接続を確認してください
片チャンネルの音が出ない	BALANCEコントロールがどちらか一方に回し切られている	BALANCEコントロールで左右の音量バランスを調整してください
	接続が不完全	接続を確認してください
ハム音ができる	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	アースコードを本機のGND端子に接続してください
レコード演奏のときに音が小さい	MCカートリッジを装着したレコードプレーヤーを演奏している	MCカートリッジ装着のレコードプレーヤーはMCヘッドアンプを使って本機に接続してください。
VOLUMEコントロールを回しても音量があまり上がらない	MUTINGがONになっている	一度VOLUMEコントロールを左に回しきり、音量を下げたから、リモコンでMUTINGをOFFにし、再度音量を調整してください
サラウンド(リア)スピーカーから音がでない	リアレベルが最小になっている	REAR LEVELキーのUP側を押して、レベルを上げてください
	モノラルソースを再生中にサラウンドモードを1～4にしている	サラウンドモード1～4はモノラルソースには対応していません。サラウンドモード5～8を選択して再生してください
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を4本とも交換してください
	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください

本機に接続しているCDプレーヤーやカセットデッキにヘッドホンを接続してモニターをすると音が歪む。	本機の電源をOFFにしている。	本機の電源をONにしてください
RSマーク付きの機器の音が出ない。	リモコンケーブルは接続しているが、音声用のピンプラグコードが完全に接続されていない。	音声用のピンプラグコードをしっかりと接続してください。

ブロックダイアグラム



参考仕様

アンプセクション

定格出力

[MAIN IN A]

6Ω (20Hz~20kHz, 0.01%)	70W + 70W
6Ω (EIAJ 1kHz, 10%)	100W + 100W

[MAIN IN B]

6Ω (20Hz~10kHz, 0.03%)	15W + 15W
6Ω (EIAJ 1kHz, 10%)	20W + 20W

ダンピングファクター (1kHz 8Ω)

[MAIN IN A]	90
[MAIN IN B]	40

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MM	2.5mV/47kΩ
CD 他	150mV/47kΩ
MAIN IN A	1V/33kΩ
MAIN IN B	340mV/33kΩ

最大許容入力

PHONO MM (1kHz)	100mV
-----------------	-------

出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT	150mV/100Ω
PRE OUT	1V/1kΩ

最大出力

PRE OUT (20Hz~20kHz, 0.01%)	5V
-----------------------------	----

ヘッドホン出力/ヘッドホンインピーダンス

0.1% THD 1kHz RL=100Ω	2.2V/100Ω
-----------------------	-----------

周波数特性

CD 他 (40Hz~20kHz)	0±1dB
MAIN IN (20Hz~20kHz)	0±1dB

RIAA偏差

PHONO MM	±0.5dB
----------	--------

全高調波歪率 (20Hz~20kHz)

PHONO MM (1V)	0.005%
CD他→PRE OUT (3V)	0.005%
MAIN IN A→SP OUT (35W/8Ω)	0.005%
MAIN IN B→SP OUT (20Hz~10kHz, 7W/8Ω)	0.01%

S/N比 (IHF-A)

PHONO MM (2.5mV入力ショート)	80dB
CD 他 (入力ショート)	96dB
MAIN IN A (入力ショート)	120dB
MAIN IN B (入力ショート)	106dB

残留ノイズ (IHF-A)

	200μV
--	-------

チャンネルセパレーション (1kHz)

PHONO MM (Vol.-30dB ショート)	65dB
CD 他 (Vol.-30dB 5.1kΩ)	65dB

トーンコントロール

BASS	可変幅	±10dB (50Hz)
	ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE	可変幅	±10dB (20kHz)
	ターンオーバー周波数	3.5kHz
MID	可変幅	±10dB (1kHz)
	センター周波数	1kHz

フィルター特性

サブソニックフィルター (内蔵)	20Hz 12dB/oct
------------------	---------------

オーディオミューティング

オーディオミューティング	-20dB
--------------	-------

トラッキングエラー (0~-60dB)

トラッキングエラー (0~-60dB)	3dB
---------------------	-----

バスエクステンション (70Hz)

バスエクステンション (70Hz)	+7dB
-------------------	------

ビデオセクション

テレビジョン方式

日米標準方式	525本 60フィールド
--------	--------------

定格入力

定格入力	1.0V _{p-p} 75Ω
------	-------------------------

定格出力

定格出力	1.0V _{p-p} 75Ω
------	-------------------------

許容入力

許容入力	1.5V _{p-p} 75Ω
------	-------------------------

S/N比

S/N比	50dB
------	------

DETAILコントロール

DETAILコントロール	-6 ~ 0 ~ +3 dB (1MHz)
--------------	-----------------------

SHARPNESSコントロール

SHARPNESSコントロール	0 ~ +10dB (2MHz)
-----------------	------------------

VIDEO LEVELコントロール

VIDEO LEVELコントロール	-3 ~ 0 ~ +3 dB
-------------------	----------------

Sビデオ入力-Y信号

Sビデオ入力-Y信号	1.0V _{p-p} 75Ω
------------	-------------------------

Sビデオ入力-C信号

Sビデオ入力-C信号	0.3V _{p-p} 75Ω
------------	-------------------------

Sビデオ出力-Y信号

Sビデオ出力-Y信号	1.0V _{p-p} 75Ω
------------	-------------------------

Sビデオ出力-C信号

Sビデオ出力-C信号	0.3V _{p-p} 75Ω
------------	-------------------------

総合

電源電圧

電源電圧	AC 100V 50/60Hz
------	-----------------

消費電力

消費電力	180W
------	------

ACアウトレット

SWITCHED×2	100W max
UNSWITCHED×1	200W max

外形寸法 (W×H×D)

外形寸法 (W×H×D)	435×126×340(最大380)mm
--------------	----------------------

重量

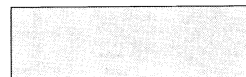
重量	9.6kg
----	-------

付属品

リモコンRS-AVX100M	1
単3乾電池 (SUM-3)	4
シール	1セット(8種類、9枚)
リモコンケーブル(カセットデッキ用)	1
リモコンケーブル(チューナー用)	1
リモコンケーブル(レコードプレーヤー用)	1
ピンプラグコード(音声用)	1
ピンプラグコード(映像用)	1

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク



ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

（右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。）

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また**製品の品名、製造番号**などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

（電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口）

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F 東北営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 特販営業所 TEL(03)255-1825 首都圏第一営業所 TEL(03)255-5691 首都圏第二営業所 TEL(03)255-5691 神田営業所 TEL(03)255-6767 販売二課 TEL(03)255-2302
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル 北関東営業所 TEL(025)241-2084
千葉	〒260 千葉市千葉港2-1 千葉コミュニティセンター1F 千葉営業所 TEL(0472)47-6622
神奈川	〒211 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内 神奈川営業所 TEL(044)434-4871
浜松	〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ッ池センター内 浜松営業所 TEL(0534)71-1207
名古屋	〒464 名古屋市中種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 TEL(052)782-7551 販売二課 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 関西営業所 TEL(06)647-6411 日本橋営業所 TEL(06)647-6411 中央営業所 TEL(06)647-6411 販売二課 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 中国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ホームエレクトロニクス事業本部 お客様ご相談センター TEL(0534)60-3421

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

国内販売統括部 TEL.(0534)60-3421

生産管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。